三重県多気郡明和町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告32

史跡 斎宮跡

平成26年度現状変更緊急発掘調査報告

平成28(2016)年３月

明　　和　　町

序

昨年４月、文化庁の新設制度である「日本遺産」に、「祈る皇女斎王のみやこ斎宮」が認定されました。この制度は、斎宮跡に関連する文化財等を面でとらえるもので、これを斎宮跡・斎王の知名度向上と、町全域の地域活性化推進に絶好の機会と捉え、町内外や国外に向けて情報発信に努めていく所存です。

また、三重県が進めておりました実物大の建物復元も昨年10月に完成し、史跡公園「さいくう平安の杜」として開園いたしました。開園にあわせた竣工式やオープンイベントでは、多くの方々にご来場いただき、平安時代の斎宮を実感していただきました。その後、より身近な公園として親しみを持っていただくとともに、様々なイベントで活用され、斎宮の活性化に大きな役割を担っています。

これらの事業とともに、明和町歴史的風致維持向上計画に基づいた周辺整備を急ピッチで進めています。来年度も引き続き事業を進め、更なる町の活性化につなげていかなければならないと考えています。

本報告書は、史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった16件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

平成28（2016）年３月

三重県多気郡明和町

町長 中 井 幸 充

例　言

1　本書は、平成26（2014）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

2　本書に掲載した調査のうち第182－４・５・７・８・９・12・15次調査は事業者が費用負担したが、それ以外については、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。

3　調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。

4　調査区名の表示方法（例：６ＡＬ13）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館　2003）による。

5　遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第Ⅵ系に相当する座標系を用いて表示している。

6　遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。

7　遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。

ＳＡ：柱列・塀　　ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＤ：溝　　ＳＥ：井戸　　ＳＦ：道路
ＳＫ：土坑　　ＳＨ：竪穴住居　　ＳＺ：落ち込み等　　ＳＸ：墓・不明遺構

8　図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。

9　本書の執筆は、宮原佑治（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、乾哲也（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は宮原・乾が担当した。

目　次

Ⅰ　前言
Ⅱ　調査報告
1　第182－１次調査 …… 3
2　第182－２次調査 …… 9
3　第182－３次調査 …… 10
4　第182－４次調査 …… 11
5　第182－５次調査 …… 11
6　第182－６次調査 …… 14
7　第182－７次調査 …… 16
8　第182－８次調査 …… 18
9　第182－９次調査 …… 19
10　第182－10次調査 …… 19
11　第182－11次調査 …… 20
12　第182－12次調査 …… 21
13　第182－13次調査 …… 22
14　第182－14次調査 …… 23
15　第182－15次調査 …… 24
16　第182－16次調査 …… 25
付編　史跡現状変更等許可申請 …… 30

表・挿図目次

[表]
第１表　史跡現状変更等許可申請の推移
第２表　第182次調査　遺構一覧表
第３表　第182次調査　遺物観察表１
第４表　第182次調査　遺物観察表２
第５表　第182次調査　遺物観察表３
第６表　平成26年度史跡現状変更等許可申請一覧表
[図]
第１図　発掘調査地位置図
第２図　第182－１次調査区位置図
第３図　第182－１次調査　遺構平面図
第４図　第182－１次調査　調査区断面図
第５図　第182－１次調査区および周辺遺構配置図
第６図　主要遺構出土状況図・断面図
第７図　第182－１次調査　遺物実測図１
第８図　第182－１次調査　遺物実測図２
第９図　第182－２次調査区位置図
第10図　第182－２次調査　遺構平面図・断面図
第11図　第182－３次調査区位置図
第12図　第182－３次調査　遺構平面図・断面図
第13図　第182－４次調査区位置図
第14図　第182－４次調査　遺構平面図・断面図
第15図　第182－５次調査区位置図
第16図　第182－５次調査　遺構平面図
第17図　第182－５次調査　調査区断面図
第18図　第182－５次調査　遺物実測図
第19図　第182－６次調査区位置図
第20図　第182－６次調査　遺構平面図・断面図
第21図　ＳＫ10741出土状況図・見通し図
第22図　第182－６次調査　遺物実測図
第23図　第182－７次調査区位置図
第24図　第182－７次調査　遺構平面図・断面図
第25図　第182－７次調査　遺物実測図
第26図　第182－８次調査区位置図
第27図　第182－８次調査　遺構平面図・断面図
第28図　第182－８次調査　遺物実測図
第29図　第182－９次調査区位置図
第30図　第182－９次調査　遺構平面図・断面図
第31図　第182－９次調査　遺物実測図
第32図　第182－10次調査区位置図
第33図　第182－10次調査　遺構平面図・断面図
第34図　第182－11次調査区位置図
第35図　第182－11次調査　遺構平面図・断面図
第36図　第182－12次調査区位置図
第37図　第182－12次調査　遺構平面図・断面図
第38図　ＳＫ10756「□万呂」墨書土器出土状況図
第39図　第182－12次調査　遺物実測図
第40図　第182－13次調査区位置図
第41図　第182－13次調査　遺構平面図・断面図
第42図　第182－13次調査　遺物実測図
第43図　第182－14次調査区位置図
第44図　第182－14次調査　遺構平面図・断面図
第45図　第182－15次調査区位置図
第46図　第182－15次調査　遺構平面図・断面図
第47図　第182－16次調査区位置図
第48図　第182－16次調査　遺構平面図・断面図
[写真]
写真１　「□万呂」墨書土器赤外線写真

写真図版

写真図版１　第182－１次調査　トレンチ１全景（西から）
写真図版２　第182－１次調査　トレンチ２全景（南から）
写真図版３　第182－１次調査　トレンチ３全景（南から）
写真図版４　第182－１次調査　トレンチ４・５全景（南から）
写真図版５　ＳＨ10666カマド周辺出土状況（南から）
写真図版６　ＳＡ10721（南から）
写真図版７　ＳＢ9478柱穴（東から）
写真図版８　ＳＡ9487柱列（南から）
写真図版９　第182－２次調査　全景（南西から）
写真図版10　第182－３次調査　全景（北西から）
写真図版11　第182－４次調査　トレンチ１全景（西から）
写真図版12　第182－４次調査　トレンチ２全景（西から）
写真図版13　第182－５次調査　トレンチ１全景（南から）
写真図版14　第182－５次調査　トレンチ２全景（南から）
写真図版15　第182－５次調査　トレンチ３全景（南から）
写真図版16　第182－５次調査　ＳＫ10737（東から）
写真図版17　第182－５次調査　トレンチ５全景（北から）
写真図版18　第182－６次調査　全景（東から）
写真図版19　第182－７次調査　全景（西から）
写真図版20　第182－８次調査　トレンチ１全景（南東から）
写真図版21　第182－９次調査　全景（南から）
写真図版22　第182－10次調査　トレンチ３西側全景（北から）
写真図版23　第182－10次調査　トレンチ３中央全景（東から）
写真図版24　第182－10次調査　トレンチ３東側全景（南から）
写真図版25　第182－10次調査　トレンチ３北側全景（北から）
写真図版26　第182－11次調査　全景（北から）
写真図版27　第182－13次調査　全景（南から）
写真図版28　第182－12次調査　全景（東から）
写真図版29　ＳＫ10756「□万呂」墨書土器出土状況（北から）
写真図版30　ＳＫ10757出土状況（南）
写真図版31　第182－14次調査　トレンチ１全景（東から）
写真図版32　第182－14次調査　トレンチ４全景（東から）
写真図版33　第182－15次調査　東側（北から）
写真図版34　第182－16次調査　全景（北から）

Ⅰ　前　言

史跡斎宮跡では、平成26年度に41件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

内訳をみると、太陽光発電施設の設置、個人住宅の新築や改築、駐車場の造成、排水管の埋設、近鉄斎宮駅北口開札口開設に伴う施設設置・信号機建替といった史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による歴史的風致維持向上計画（以下、歴まち事業）に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は16件で、調査面積の合計は868㎡である。

第182－１・６次調査は太陽光発電施設の設置、第182－２・３・８・10・11・13・14・16次調査は個人住宅の新築・改築や駐車場の造成、排水管の埋設に伴い、発電パネルの基礎や建物の基礎にあたる部分を中心に調査を行った。第182－４・９次調査は近鉄関連で、斎宮駅北口開札口の設置や敷地内信号機建替に伴い、設置箇所、建替箇所の調査を行った。第182－５・７・12・15次調査は歴まち事業に伴い、地下遺構の実態を把握するために、304㎡の調査を行った。

平成26年度の史跡現状変更に伴う調査は、太陽光発電施設の設置にかかる比較的面積の広い調査も含まれ、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。（宮原佑治）

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積（㎡）	うち補助金調査件数	同調査面積（㎡）
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
計	1,592	412	67,672.8	254	25,518.9

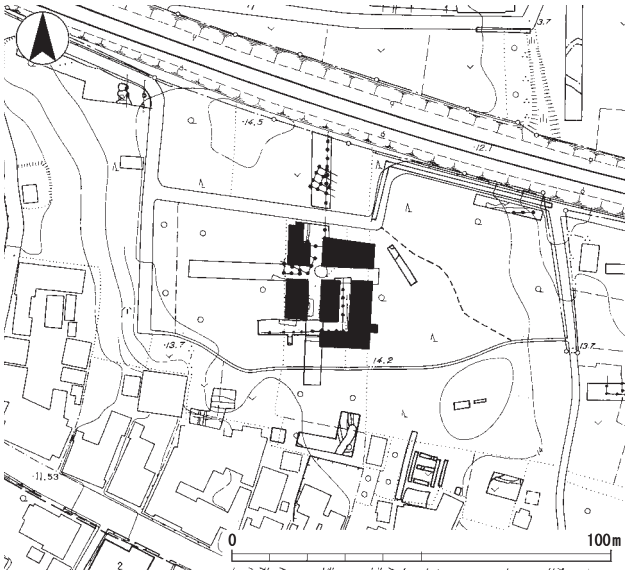
第１表　史跡現状変更等許可申請の推移

第１図　発掘調査地位置図（1:10,000）

Ⅱ　調査報告

1　第182－１次調査（６ＡＭ12）

調査場所　多気郡明和町大字竹川字中垣内
434－１、464－２
原　　因　太陽光発電施設設置
調査期間　平成26年４月８日～７月24日
調査面積　235.1㎡
調査概要　史跡西南部の奈良時代の斎宮所在地の可能性が高いと指摘されている箇所で行われた調査である。調査区周辺では、第146次調査（平成17年度）・第179－６次調査（平成25年度）が実施されており、奈良時代から平安時代にかけての柱列（掘立柱塀）が確認されている。今回の発掘調査では、これら先行する調査区の隣接地点の５箇所にトレンチを設置した。

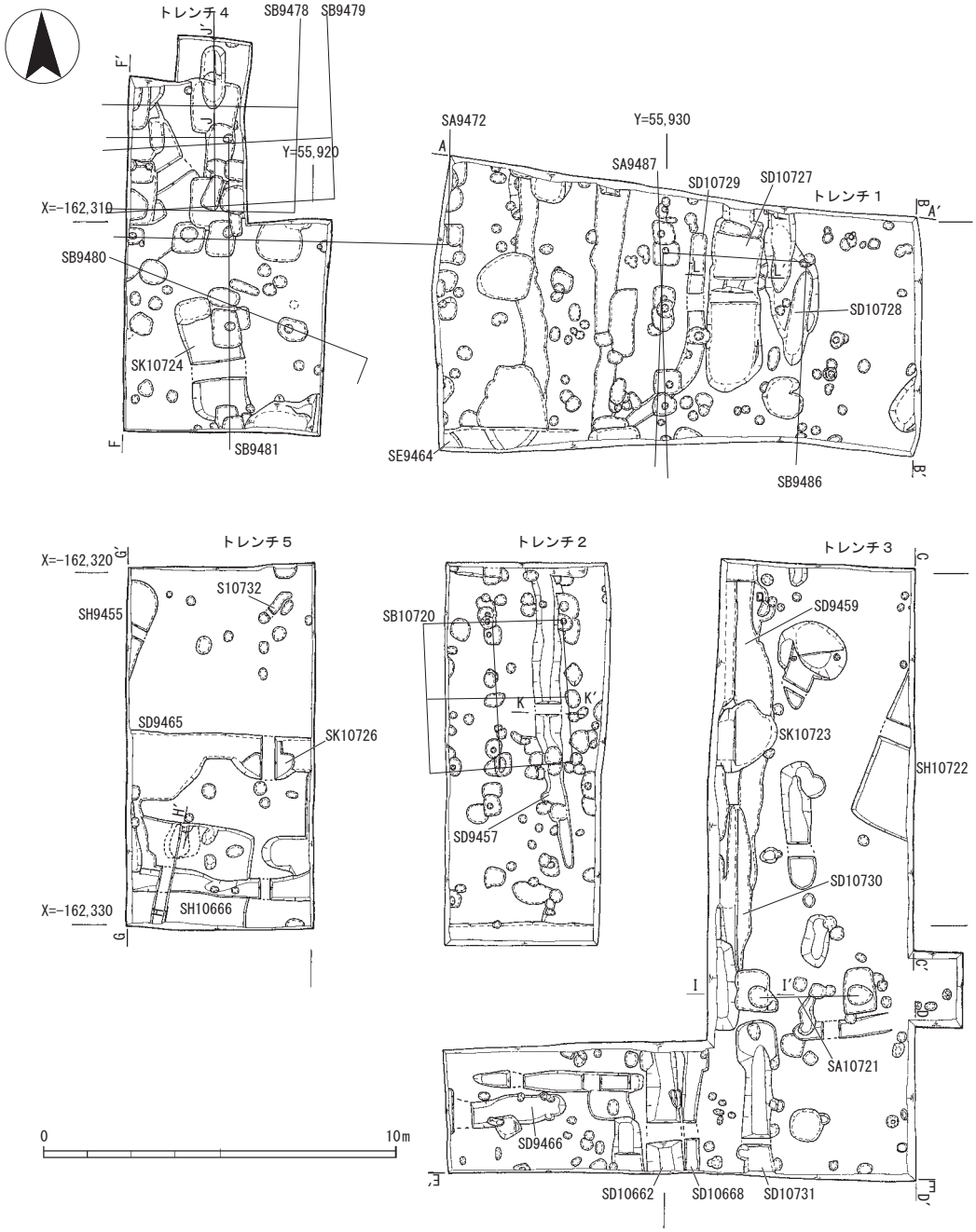


第２図　第182－１次調査区位置図（1:2,000）

調査の結果、奈良時代と平安時代の柱列（堀立柱塀）がそれぞれ１条、掘立柱建物５棟、竪穴住居２棟、土坑、溝、柱穴などを確認し、これまでの周辺の発掘調査成果に加わる新たな知見が得られた。

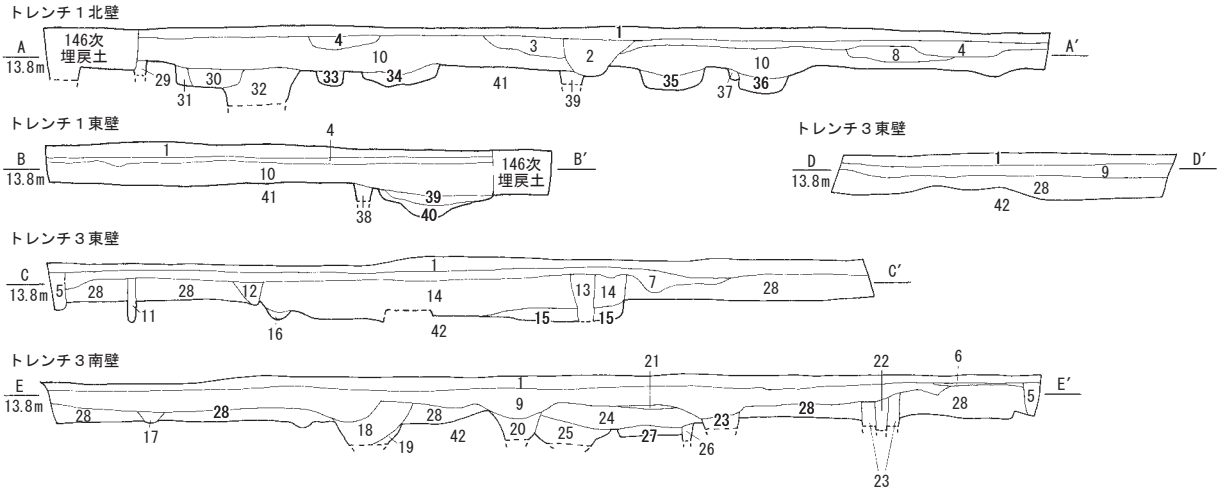
竪穴住居は、ＳＨ10666で新たにカマドを確認した。遺構内より出土した土器（１～５）はいずれも土師器で、斎宮編年[1]Ⅰ－１期よりも古く、遺構の時期は古墳時代後期にまで遡る可能性がある。他の出土遺物としては、カマドより用途不明の土製品（６）が出土した。その他の竪穴住居と考えられる遺構にＳＨ9455・ＳＨ10722がある。ＳＨ9455からの遺物の出土はなかったが、第146次調査報告では、出土遺物から斎宮編年Ⅰ－１～２期に位置づけられている。ＳＨ10722からは結晶片岩製の打製石斧（７）や鞴羽口（８）などと共に鉄滓も出土している。土器はいずれも細片であったため正確な時期は不明であるが、古代に該当すると考えられ、鞴羽口や鉄滓の出土はＳＨ10722が鍛冶関連遺構である可能性を示している。

掘立柱の遺構は、掘立柱塀のＳＡ9472およびＳＡ9487に加えて、調査区南東隅では門や鳥居の可能性のある２基の柱穴からなるＳＡ10721を確認した。遺構の時期を判断する根拠が乏しいものの、埋土の特徴や一辺0.8～1.2ｍの方形の柱掘方の規模・形状等から、奈良時代以前の可能性が高い。ＳＢ9478は柱穴４基を確認した。いずれの柱掘方の規模も一辺1.3～1.4ｍと大きく、柱穴の配列から総柱建物もしくは庇付建物を想定させる。柱穴４基のうち北東の１基は抜き取りの痕跡が明瞭にみられた。柱穴内からは斎宮編年Ⅰ－１期以前の土師器の鉢（９）と弥生土器壺頸部（10）が出土しているが、どちらも混入したものと考えられよう。ＳＢ9480は柱穴３基、庇付建物と考えられるＳＢ9479は柱穴４基、総柱建物と考えられるＳＢ10720の柱穴６基が、いずれも平安時代の掘立柱塀と考えられるＳＡ9487に囲まれた範囲内より確認されており、特にＳＢ9480以外（過去の調査で確認された建物を除く）は、主軸に大きな異なりがみられず、塀に伴う建物の可能性も考えられる。この地域において掘立柱塀内部で塀に伴う可能性のある建物が確認できたのは初めてであるが、時期的な併行関係および空間的な整理が現段階では不鮮明ある。さらに掘立柱建物の性格については検討する材料を著しく欠くため、今後の調査事例の増加を待ち検討する必要があろう。その他、掘立柱塀の外部にもＳＢ9486が確認されたものの出土遺物がなく時期は不明である。

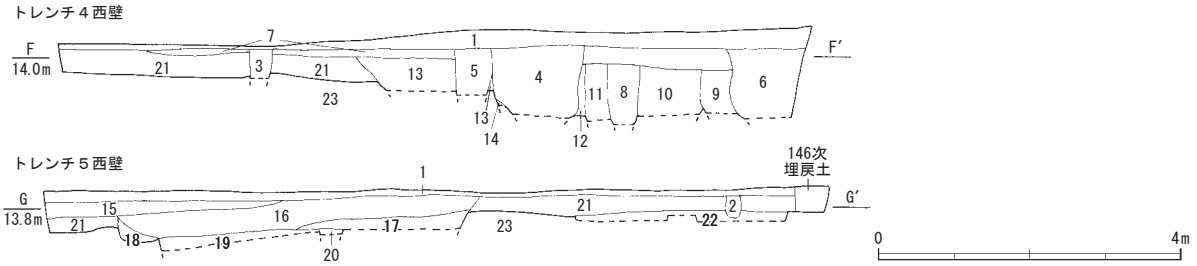


第３図　第182－１次調査　遺構平面図（1:200）

土坑や溝は、ＳＢ9480と重複する場所で確認されたＳＫ10724から斎宮編年Ⅳ期以降の陶器の山茶椀（11）や管状土錘（12）が出土し、鎌倉時代以降の遺構と考えられる。ＳＤ9465と重複するＳＫ10726からは須恵質の頸部の短い瓶類（13）が出土し、古代の遺構と考えられる。ＳＤ9457はトレンチ１からトレンチ２までの南北長約20m以上の溝で、トレンチ１およびさらにその北側にも継続するようである。ＳＡ9487と並行しているようにもみえる。出土遺物には斎宮編年Ⅲ期以降の陶器の山茶椀（14・15）や平底鉢（16）、須恵器の平底の甕（17）の他、甕類などの台部（18）や鞴羽口片（19）もみられた。遺構の時期は不明瞭であるがＳＤ9457は平安時代後期以降と考えられる。ＳＤ9459は第146次調査概報ではＳＫとされていたが、本調査により、南北に延びる溝であることが明らかとなった。ＳＤ10727やＳＤ10730と共にＳＡ9487の外側で並行する溝と考えられ、推測するならば掘立柱塀で囲われた空間に並行する道路側溝の可能性などが考えられる。遺物は斎宮編年Ⅱ－２～３期の土師器皿（20）が出土しており、遺構の時期は平安時代前期まで遡る可能性がある。ＳＤ9465は外形が隅丸方形状に廻る溝で、溝の内側は島状に高くなっていたと考えられる。苑池な

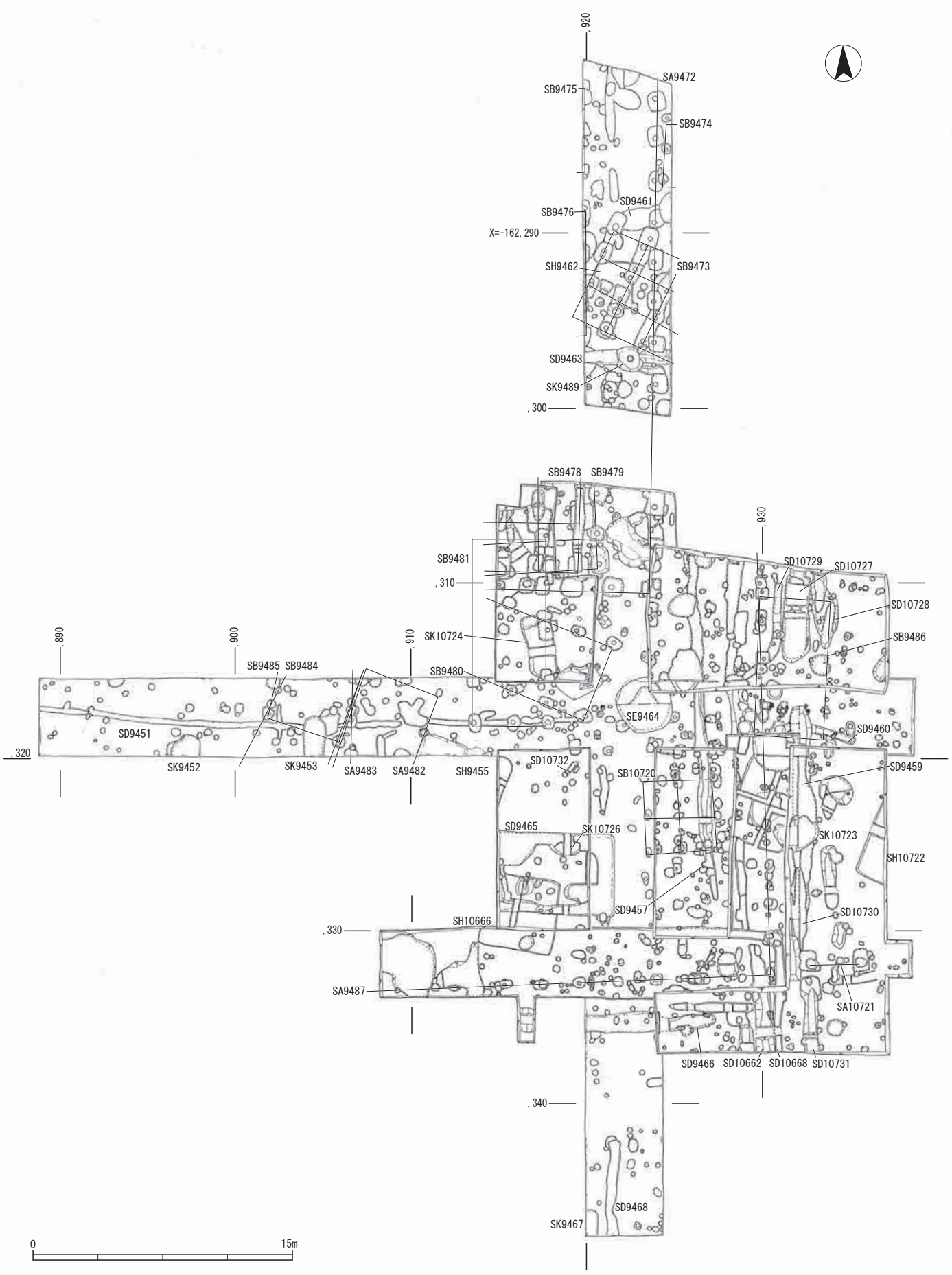


1 5Y4/1 灰色砂質土【表土】
2 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土【攪乱】
3 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
4 5Y6/4 オリーブ黄色砂質土
5 10YR3/3 暗褐色土【埋戻し土】
6 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
7 10YR4/3 にぶい黄褐色土
8 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　土器を含む
9 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
10 10YR4/1 褐灰色砂質土【包含層】
11 2.5Y5/4 黄褐色土
12 10YR4/3 にぶい黄褐色土
13 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土【攪乱？】
14 10YR3/2 黒褐色土
15 2.5Y4/2 暗灰黄色土
16 2.5Y4/2 暗灰黄色土
17 10YR4/2 灰黄褐色土
18 10YR3/2 黒褐色土
　10YR4/6 褐色ブロックを３％含む
19 10YR5/2 灰黄褐色粘質土　よくしまる
20 10YR4/3 にぶい黄褐色土
21 2.5Y5/1 黄灰色砂質土
22 10YR4/1 褐灰色砂質土【柱穴柱痕】
23 10YR3/1 黒褐色砂質土【柱穴掘方】
24 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土に礫をやや含む
25 10YR3/2 黒褐色土
26 10YR5/2 灰黄褐色砂質土【柱穴】
27 10YR4/1 褐灰色砂質土
28 2.5Y3/1 黒褐色砂質土　粘性あり【黒ボク】
29 2.5Y4/1 黄灰色砂質土
30 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
31 2.5Y5/3 黄褐色砂質土
　2.5Y4/1 黄灰色シルトブロックを含む【SE9464 掘方？】
32 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土　土器を含む【SE9464 埋土】
33 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
34 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　土器を含む
35 2.5Y4/1 黄灰色砂質土に土器・炭を含む【SD10727 埋土】
36 10YR4/1 褐灰色砂質土
　地山粘土ブロックを多く含む【SD10728 埋土】
37 2.5Y5/1 黄灰色砂質土
38 2.5Y4/1 黄灰色砂質土
39 2.5Y3/1 黒褐色砂質土
40 2.5Y3/1 黒褐色砂質土に地山粘土ブロックを含む
41 10YR6/6 明黄褐色粘土【地山】
42 10YR7/6 明黄褐色砂質土【地山】
　2.5Y3/1 黒褐色砂質土が混ざる

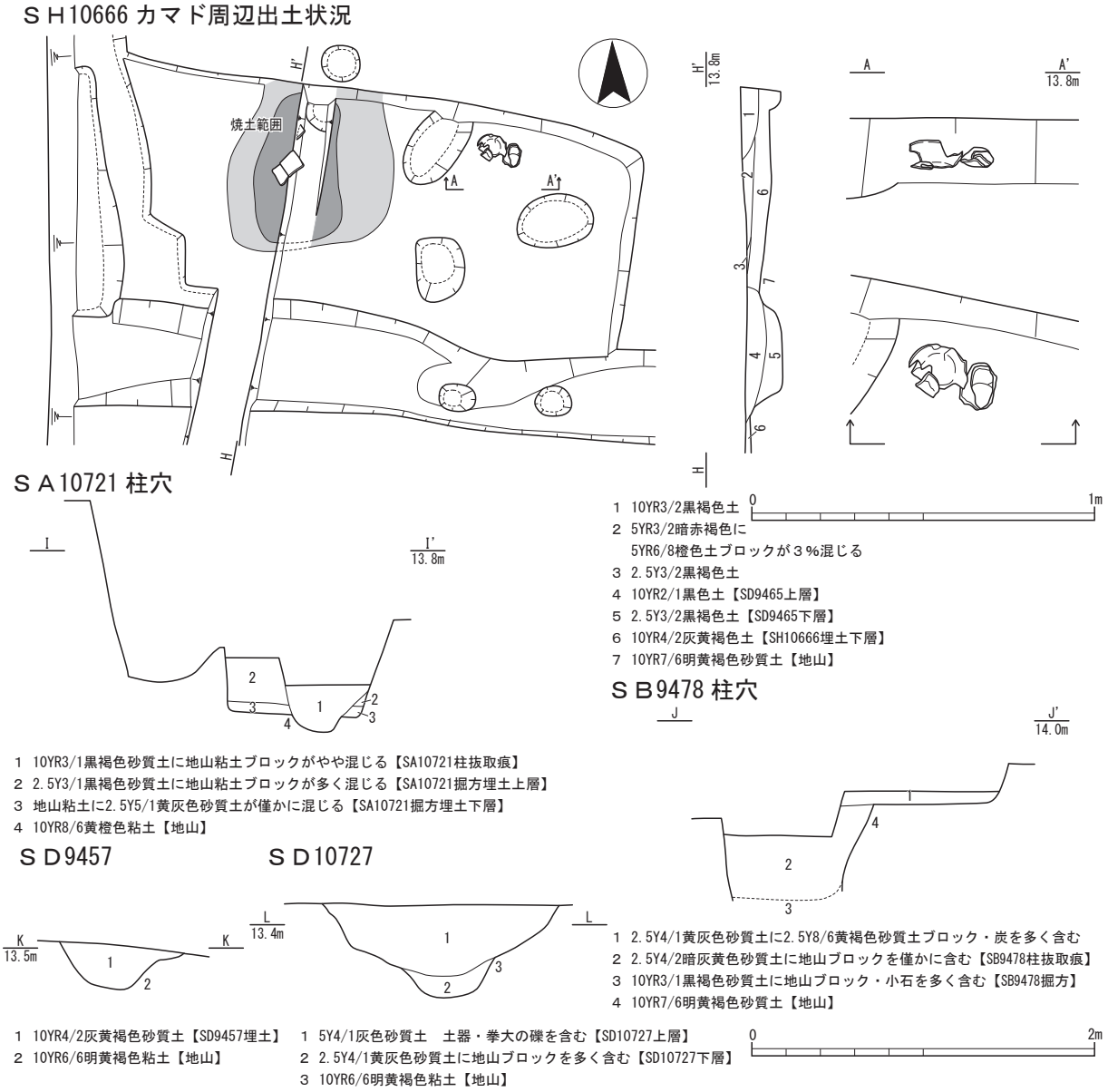


1 2.5Y5/1 黄灰色砂質土【表土】
2 5Y4/1 灰色砂質土【攪乱】
3 2.5Y7/2 灰黄色砂質土
4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
　土器・拳大の礫を少し含む
5 10YR4/1 褐灰色砂質土
6 2.5Y6/2 灰黄色砂質土
7 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
8 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
　10YR8/1 灰白色砂質土ブロックや拳大の礫を僅かに含む
9 10YR6/2 灰黄褐色砂質土
　10YR7/4 にぶい黄橙色砂質土ブロック、
　10YR3/2 黒褐色砂質土ブロック、拳大の礫を多く含む
10 10YR5/2 灰黄褐色砂質土
　10YR7/6 明黄褐色砂質土ブロック、
　10YR4/1 褐灰色砂質土ブロック、拳大の礫を多く含む
11 2.5Y5/3 黄褐色砂質土
　10YR8/1 灰白色砂質土ブロック、拳大の礫を少し含む
12 2.5Y5/3 黄褐色砂質土に拳大の礫を少し含む
13 10YR3/1 黒褐色砂質土
14 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
15 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
16 10YR4/1 褐灰色砂質土に拳大の礫をやや含む
17 10YR5/1 褐灰色砂質土に拳大の礫を多く含む
18 2.5Y4/1 黄灰色砂質土に 10YR7/4 にぶい黄橙色砂質土ブロックを含む
19 10YR5/1 褐灰色砂質土に 10YR7/4 にぶい黄橙色砂質土ブロックをやや含む
20 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
21 2.5Y4/1 黄灰色砂質土
22 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土【SH10722 埋土】
23 10YR7/6 明黄褐色砂質土【地山】

第４図　第182－１次調査　調査区断面図（1:100）

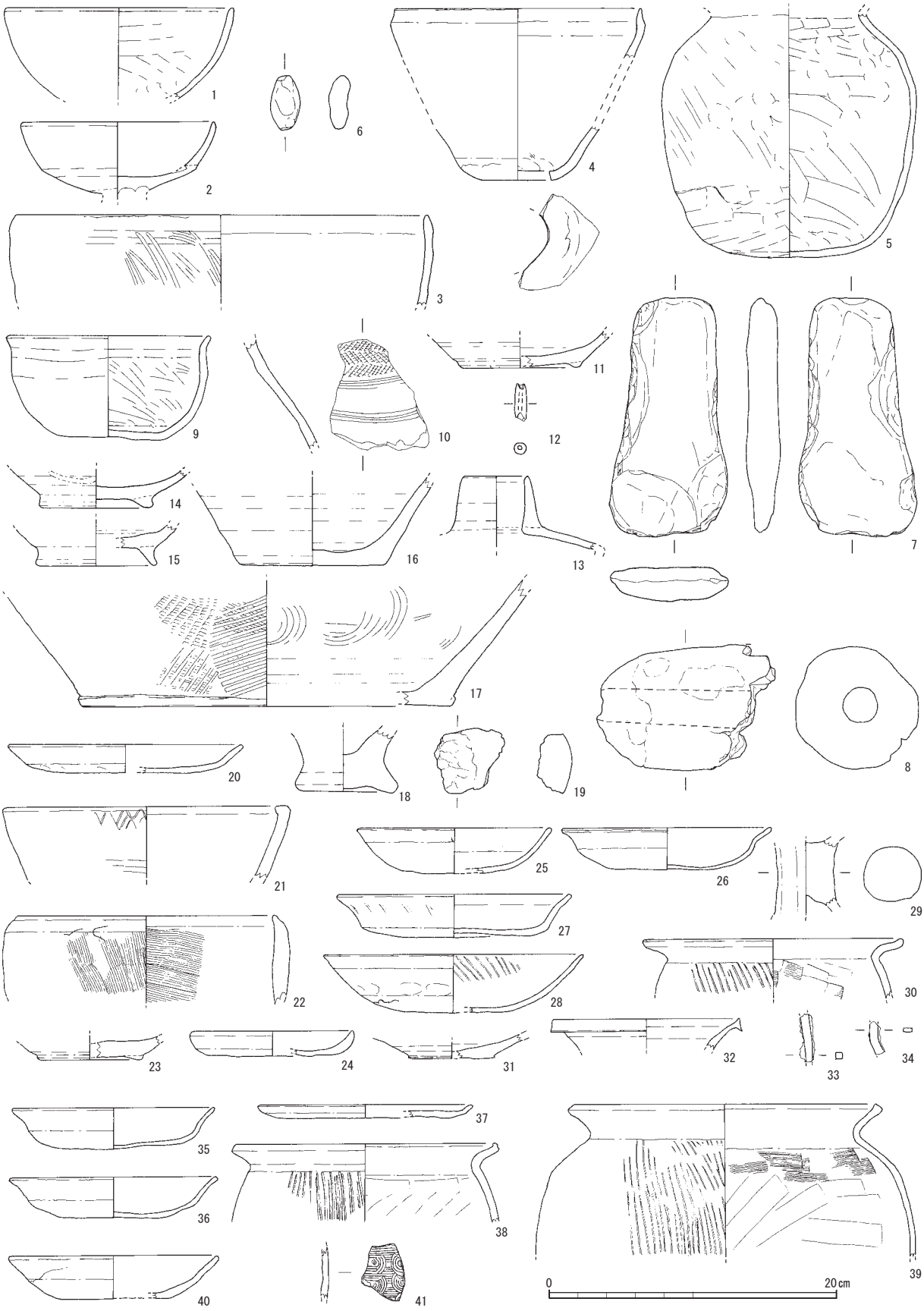


第５図　第182－１次調査区および周辺遺構配置図（1:300）

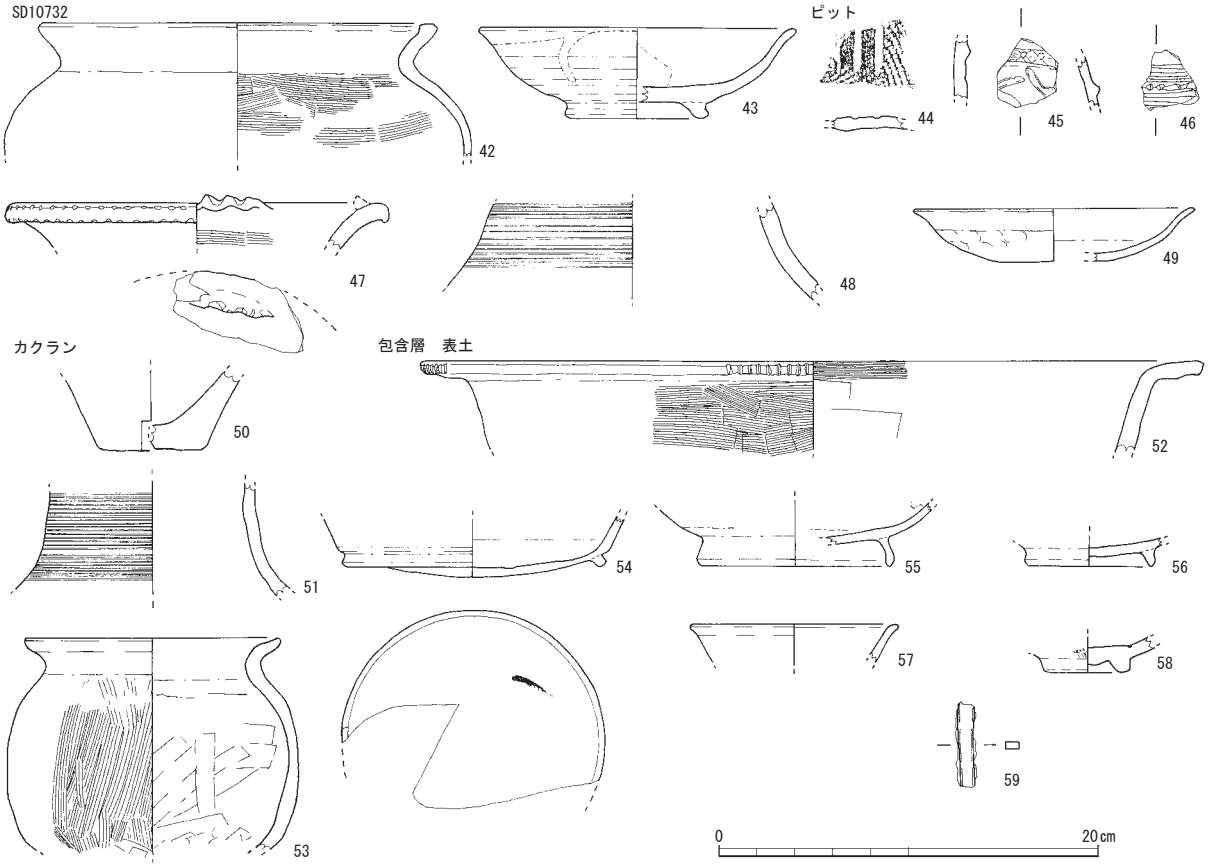


第６図　主要遺構出土状況図（1:20、1:40）・断面図（1:40）

どの性格が考えられる遺構であるものの、明確な根拠はみられない。出土遺物には櫛による波状文が施された弥生土器片（21）がみられたが、混入したものであろう。ＳＤ9466は第146次調査にて確認されていた溝で、本調査により東端が確認できた。遺物は土師器甑（22）のみであるが、前回の調査も含めて平安時代前期に位置づけられる。ＳＤ10662は南北に延びる溝で、斎宮編年Ⅳ期以降の陶器の山茶椀（23）や土師器皿（24）が出土している。ＳＤ10662の東に隣接するＳＤ10668も山茶椀の細片などが出土しており、ＳＤ10662に近い時期が考えられる。ＳＤ10727は先述したＳＤ9459と共に、ＳＡ9487と南北に並行する可能性がある溝で、斎宮編年Ⅱ－１～３期に該当する土師器皿（25～28）や土師器高杯（29）、土師器甕（30）のほか、須恵器盤（31）や灰釉陶器の壺（32）、釘と考えられる鉄製品（33・34）などが出土している。ＳＤ10728はＳＤ10727の東に隣接する溝で、斎宮編年Ⅱ－２～３期の土師器杯や皿（35～37）、甕（38・39）が出土している。ＳＤ10729はＳＤ10727の西に隣接する溝で、斎宮編年Ⅱ－２期の土師器杯（40）が出土している。また、ＳＤ10732からは斎宮編年Ⅲ－２期頃の土師器甕（42）と陶器の山茶椀（43）が出土し、混入品と考えられる弥生土器（41）が出土している。その他、図化可能な遺物は出土しなかったが、ＳＤ10730は先述したＳＤ9459・ＳＤ10727と同様にＳＡ9487と並行する溝と考えられる。ＳＤ10731はそれらより、さらに南に展開する溝である可能性があるものの、出土遺物がなく不明である。



第７図　第182－１次調査　遺物実測図１（１：４）



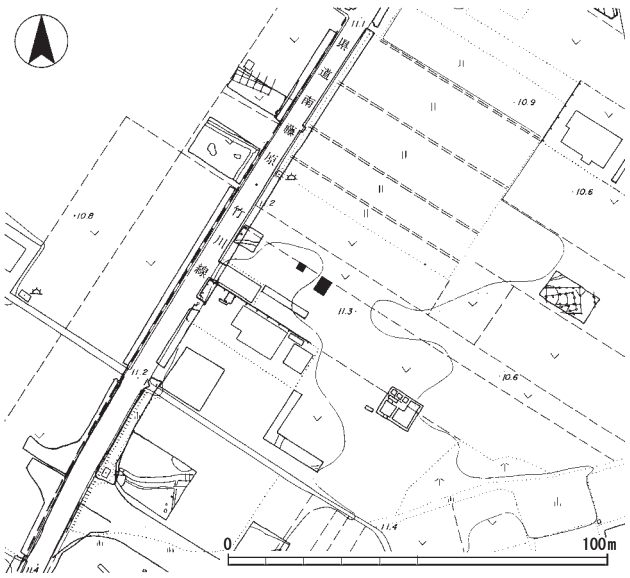
第８図　第182－１次調査　遺物実測図２（１：４）

ピットからは縄文時代中期末葉頃の深鉢（44）や晩期の深鉢（45・46）の他、弥生時代中期の壺口縁部（47）、頸部（48）、平安時代前期の土師器杯（49）が出土した。また、攪乱からは弥生土器の穿孔された小型壺底部（50）や壺頸部（51）、包含層や表土からは、弥生時代中期の甕（52）、奈良時代の土師器甕（53）、底部に墨書痕跡がみられる須恵器杯（54）、灰釉陶器の椀（55・56）、青磁椀（57・58）、釘の一部と考えられる鉄製品（59）等が出土している。

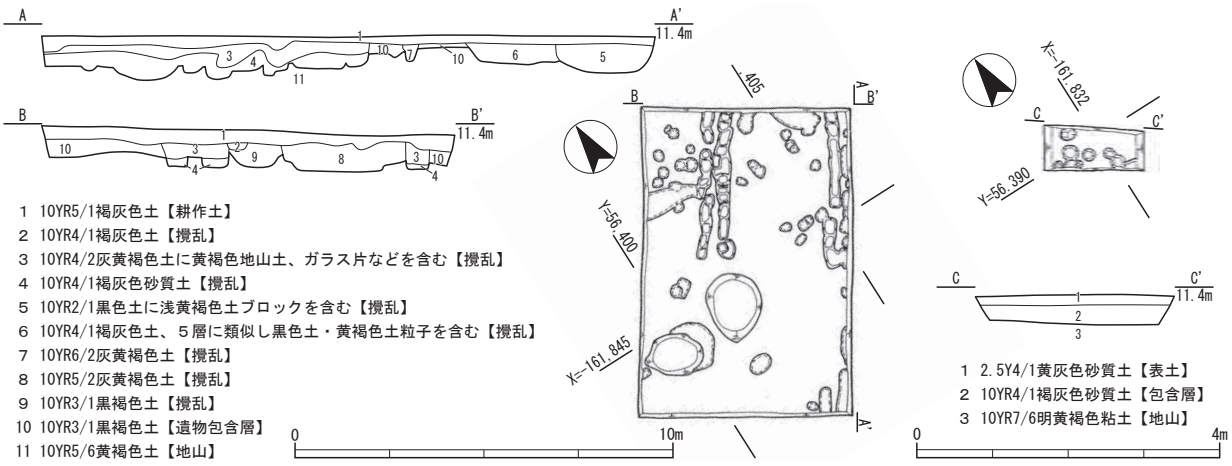
２　第182－２次調査（６ＡＨ10Ｈ11）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字古里
3267－1、3267－2
原　　因　住宅新築
調査期間　平成26年４月23日～５月８日
調査面積　46.6㎡
調査概要　調査地は、史跡西部、斎宮歴史博物館の約100m東に位置する畑地である。住宅の新築に伴い、２箇所のトレンチを設けて事前調査を実施した。

調査の結果、地表下0.4m（標高11.0m）で遺構面を検出した。確認できた遺構は、風倒木や耕作に伴う現代の溝等で、中世以前にさかのぼるものはなかった。遺物は土師器片と須恵器片が出土したものの、いずれも小片であった。



第９図　第182－２次調査区位置図（1:2,000）



第10図　第182－２次次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

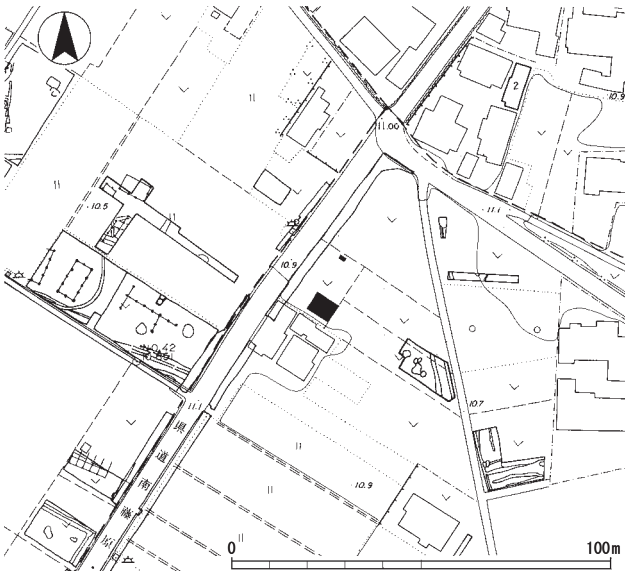
３　第182－３次調査（６ＡＭ11）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字古里3259－1

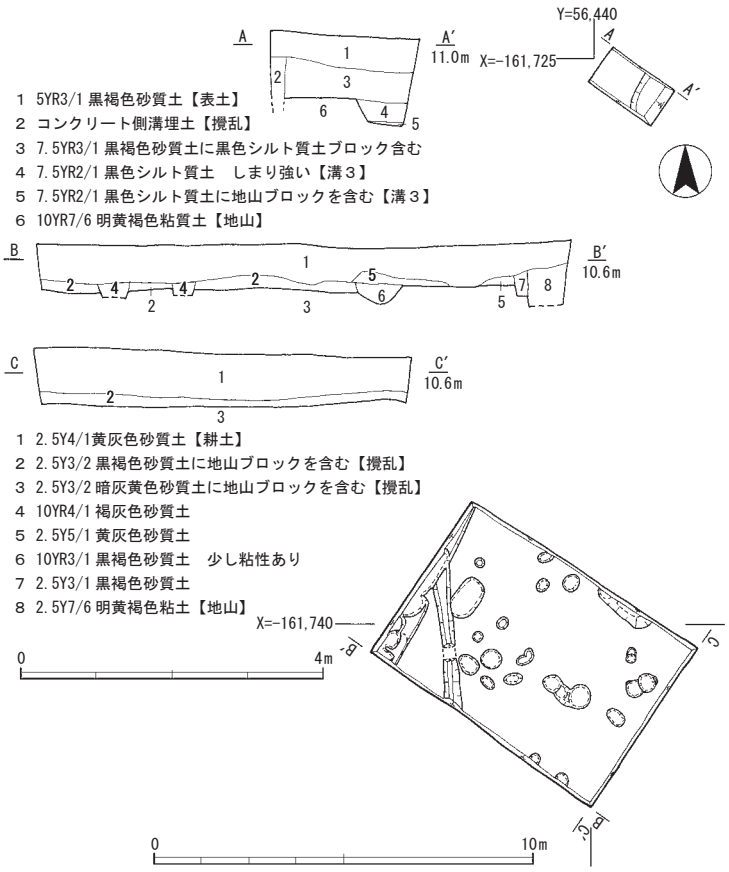
原　　因　住宅新築

調査期間　平成26年５月30日～６月11日

調査面積　37.2㎡



第11図　第182－３次調査区位置図（1:2,000）



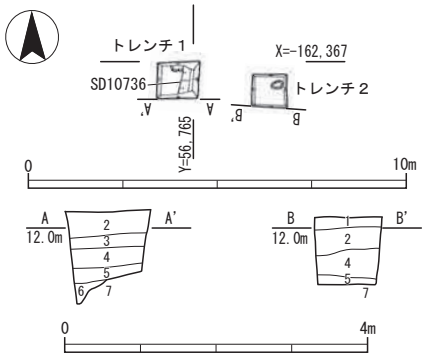
第12図　第182－３次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

調査概要　調査地は史跡西部、斎宮歴史博物館の北東200ｍに位置する畑地である。住宅の新築に伴い、２箇所のトレンチを設け実施した事前調査である。

基本層序は表土、黒褐色砂質土、明黄褐色粘土（地山）で、遺構は黒褐色砂質土上面から掘り込まれている。遺構埋土も類似色のため、遺構は地表下約0.5～0.8ｍ（標高10.2～10.1ｍ）の地山直上で検出した。遺構は溝２条、土坑・柱穴などを確認し、遺物は各遺構から土師器皿・甕、山茶椀等が出土したが、いずれも小片であった。

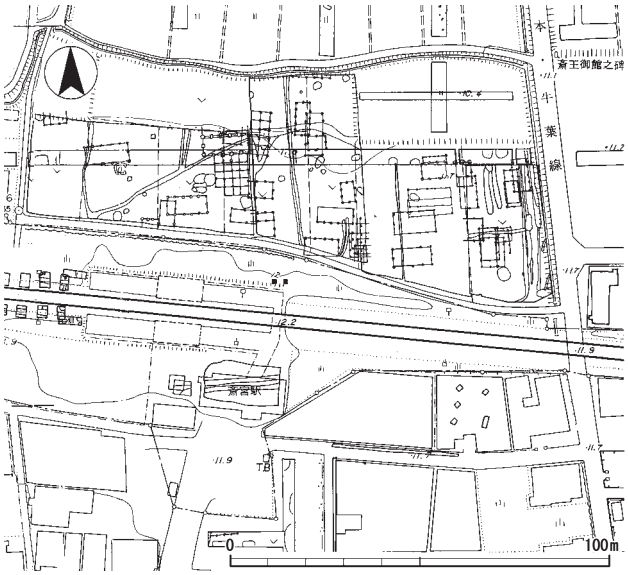
4　第182－４次調査（６ＡＳ13）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字内山
3046－4、5、7
原　　因　改札口設置
調査期間　平成26年６月23日
調査面積　1.8㎡



1 【セメント・砕石】
2 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土　砕石多く含む【表土】
3 2.5Y6/3にぶい黄褐色砂質土【撹乱】
4 2.5Y6/2灰黄色砂質土　粘性あり【撹乱】
5 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土　土器含む【包含層】
6 2.5Y5/2灰黄色砂質土に地山粘土ブロック含む【ＳＤ10736】
7 10YR6/8明黄褐色粘土【地山】

第14図　第182－４次調査
遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）



第13図　第182－４次調査区位置図（1:2,000）

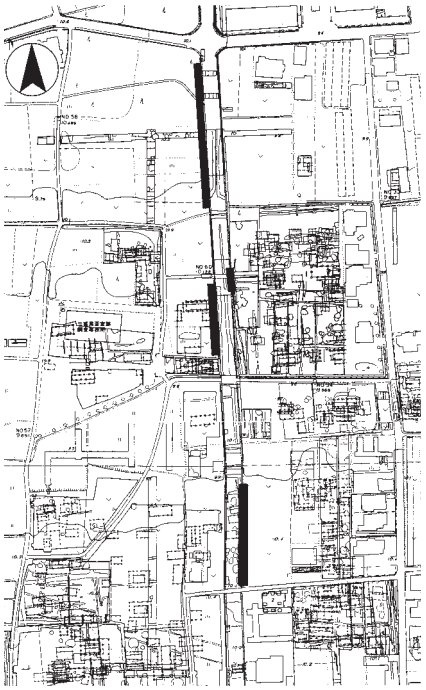
調査概要　調査地は史跡中央付近に位置する。斎宮駅の改札口設置に伴い、事前調査を実施した。駅ホームの支柱基礎部分（１ｍ四方）２箇所にトレンチを設けた。

基本層序は表土下約0.8ｍまでが攪乱で、その下層に包含層、地山を検出した。遺構は表土下約0.8～0.9ｍ（標高11.2～11.4ｍ）地山層上面で、溝１条と柱穴等を確認した。遺物は土師器、須恵器等が出土したもののいずれも小片であった。

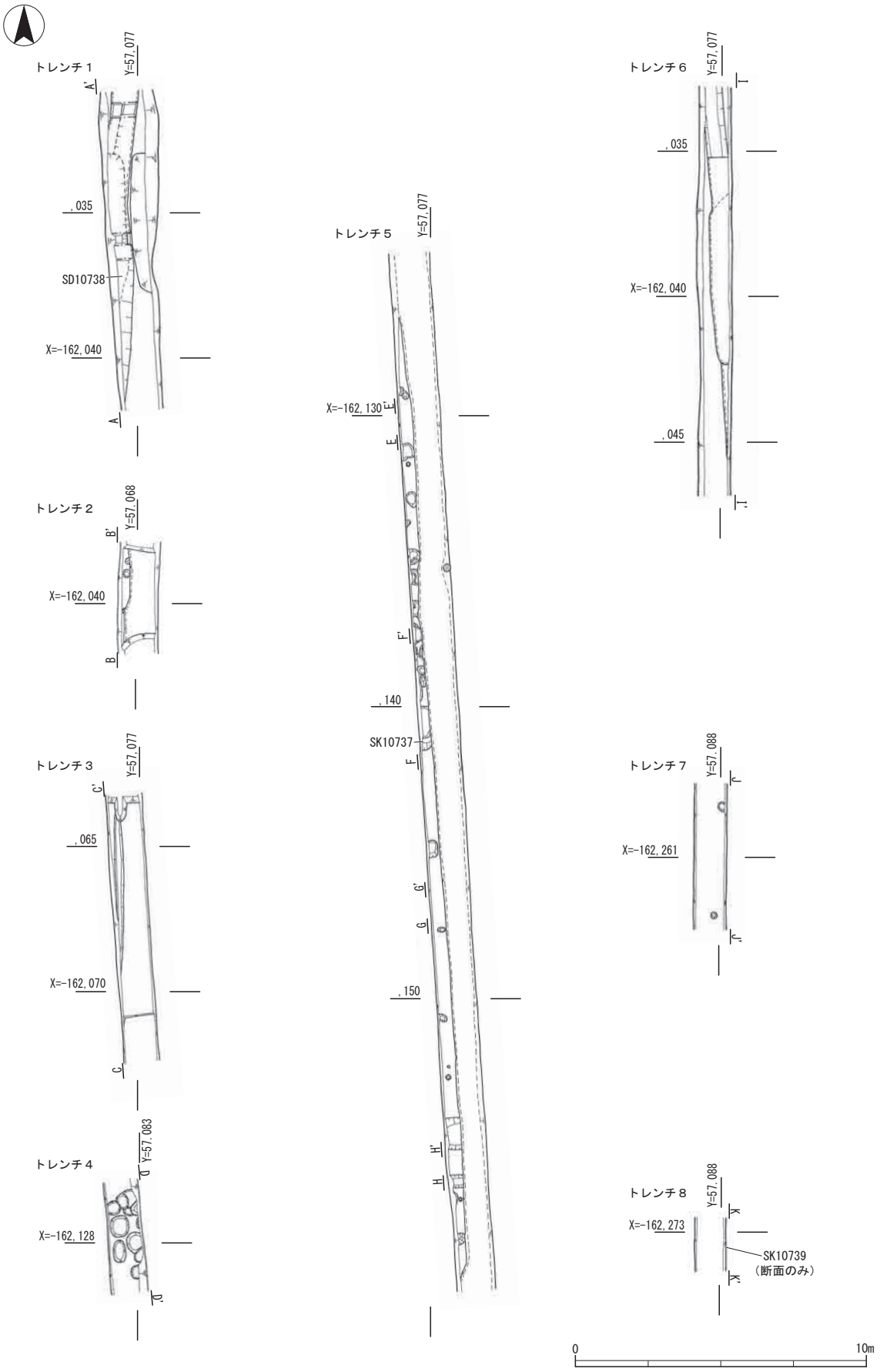
5　第182－５次調査（６ＡＵ８）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字楽殿、西加座、柳原地内
原　　因　休憩所建設等
調査期間　平成26年７月４日～11月19日
調査面積　88.7㎡
調査概要　調査地は史跡中央部東に位置し、明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の一環として行われた広域圏道路、斎宮・坂本線整備工事について立会を行ったところ、遺構を確認したため、８箇所のトレンチにて実施した調査である。

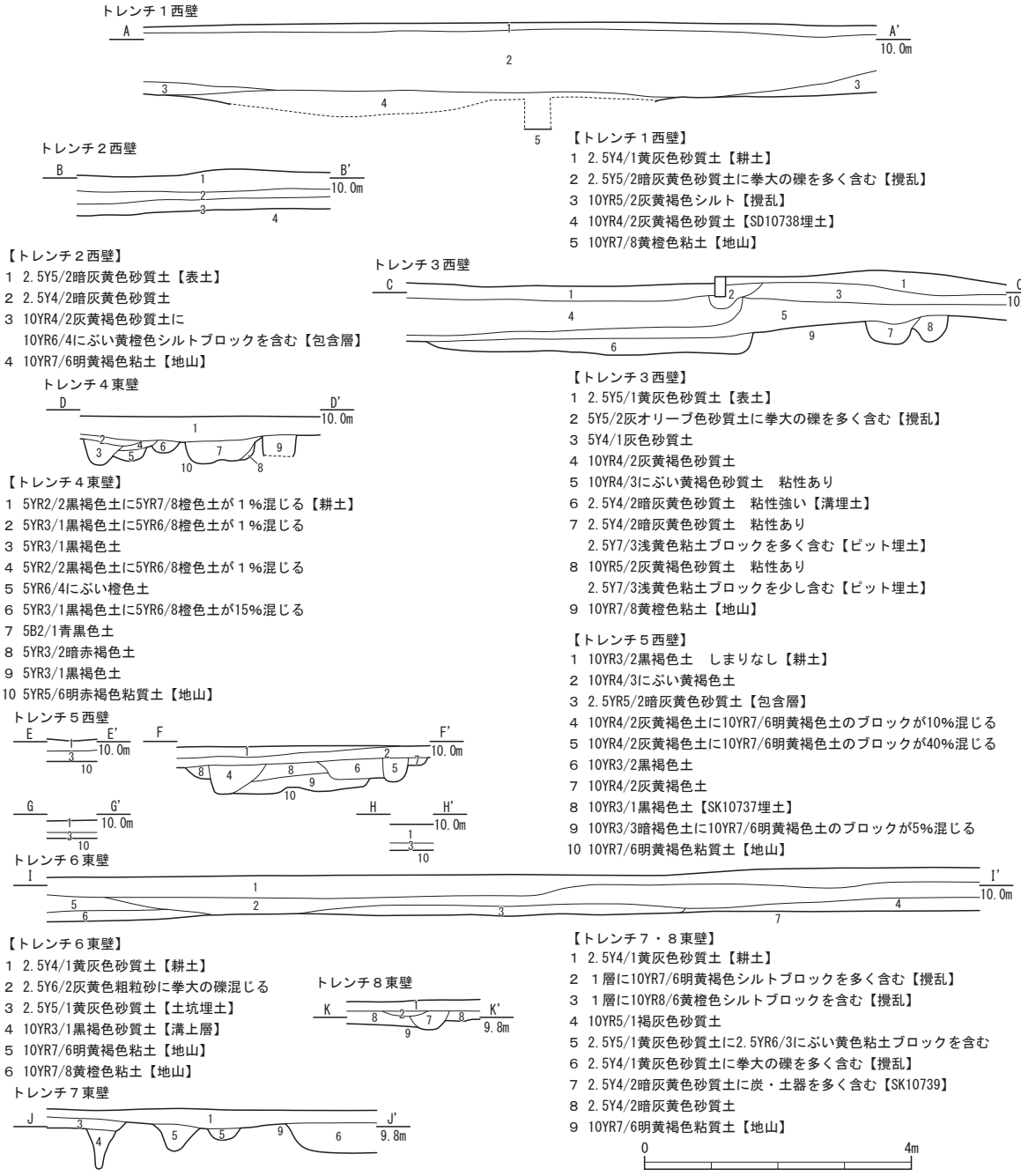
調査区は幅１～1.2ｍのトレンチ調査で、断続的に南北約350ｍの区間におよぶ。遺構面は、最も北に位置するトレンチ１では上層面を深く攪乱されており、地表下約1.0ｍ（標高約9.0ｍ）でＳＤ10738を検出した。最も南側のトレンチ８では地表下約0.3ｍ（標高約9.8ｍ）の地山層上面で検出した。包含層と考えられる暗灰黄色砂質土を掘り込んだＳＫ10739を断面で確認した。



第15図　第182－５次調査区
位置図（1:4,000）



第16図　第182－５次調査　遺構平面図（1:200）



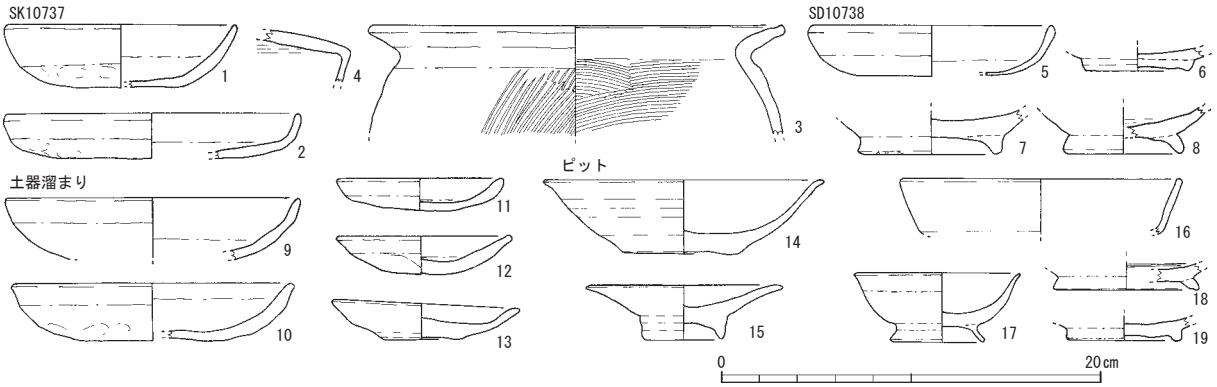
第17図　第182－５次調査　調査区断面図（1:100）

トレンチ全体での遺構は柱穴や溝、土坑等を確認し、遺物は土師器、ロクロ土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器等が出土した。

ＳＫ10737はトレンチ５の中央部分で確認した土坑で、東側は調査区を南北に縦断する溝と重複する。遺構内からは斎宮編年Ⅱ－１～２期に該当する土師器杯や皿（１・２）、甕（３）、須恵器平瓶（４）等が出土した。調査区が狭いため、周囲の遺構との関連性は不明瞭である。

ＳＤ10738はトレンチ１のやや北東から南西に11m以上延びる溝で、斎宮編年Ⅲ－３期以降の土師器皿（５）やロクロ土師器（６）、陶器の山茶椀（７・８）が出土している。調査区が狭いため、周囲の遺構との関連性は不明瞭である。

トレンチ８のＳＫ10739は、包含層である暗灰黄色砂質土を掘り込んでおり、埋土には同系色の暗灰黄色砂質土が堆積していた。そのため、断面でのみ遺構状の落ち込みを確認できた。斎宮編年Ⅲ－３期以降の土師器皿（９～11）やロクロ土師器（12～15）が出土している。この他ピットから



第18図　第182－５次調査　遺物実測図（１：４）

は、須恵器杯（16)、灰釉陶器小椀（17)、陶器の山茶椀（18・19）などが出土した。

６　第182－６次調査（６ＡG11）

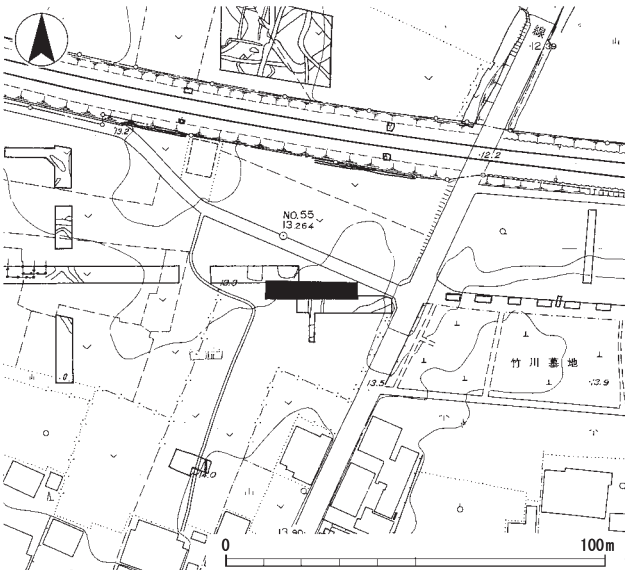
調査場所　多気郡明和町大字竹川字中垣内452－1

原　　因　太陽光発電施設設置

調査期間　平成26年７月８日～８月11日

調査面積　107.5㎡

調査概要　調査地は史跡南西部に位置し、調査地では平成18年度に第149次調査が行われている場所である。太陽光発電施設の設置に伴い、事前調査を実施した。



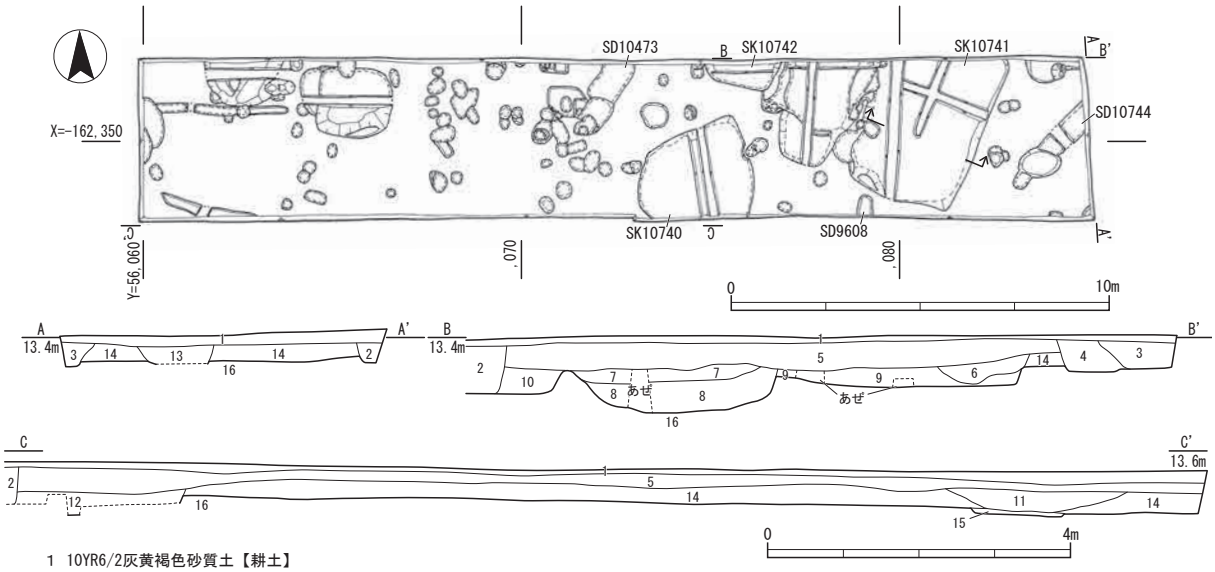
第19図　第182－６次調査区位置図（1:2,000）

基本層序は耕土、灰黄色砂質土、暗灰黄色砂質土、淡黄色砂質土（地山）となる。遺構は地表下約0.4m（標高約13.0m）の地山層上面で検出した。遺構は土坑、溝、柱穴等を確認し、遺物は土師器、須恵器、山茶椀、陶器、青磁等が出土した。

主要な土坑としては、ＳＫ10740は調査区中央南に位置する不整形の土坑で、須恵器の壺底部（１）が出土した。ＳＫ10741は調査区東部に位置する長方形プランの土坑で、斎宮編年Ⅳ期以降の土師器皿（２)、鍋（６）や陶器の山茶椀（３)、底部に墨書された山茶椀（４)、鉢（５）が出土している。ＳＫ10742はＳＫ10740の北に位置する土坑で、斎宮編年Ⅳ期以降の陶器の山茶椀（７）が出土している。

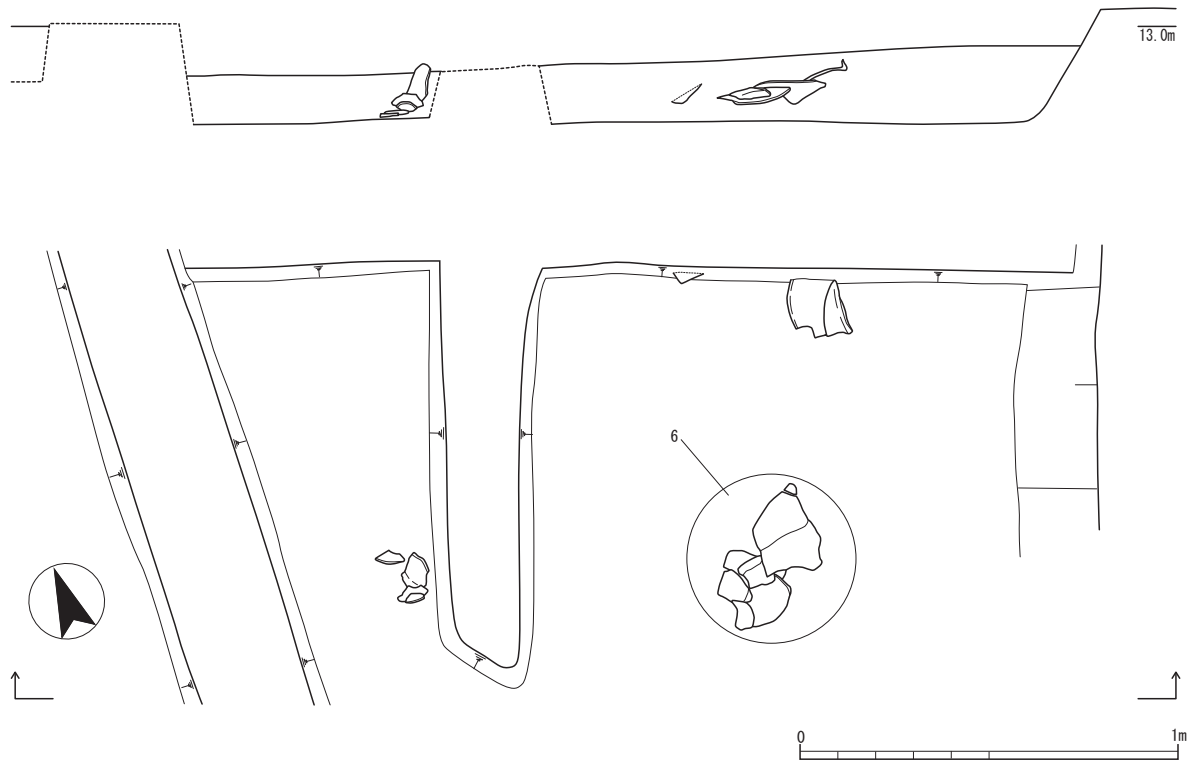
溝は、第149次調査で確認されていたＳＤ9608の北端を確認した。出土遺物はない。その他、中世に遡る可能性のある遺構として、ＳＤ10743、ＳＤ10744があり、土師器や、土師器や山茶椀の小片が出土している。

その他、ピットからも陶器の山茶椀（８～12）が出土しており、主に中世遺構が集中する様相が明らかとなった。

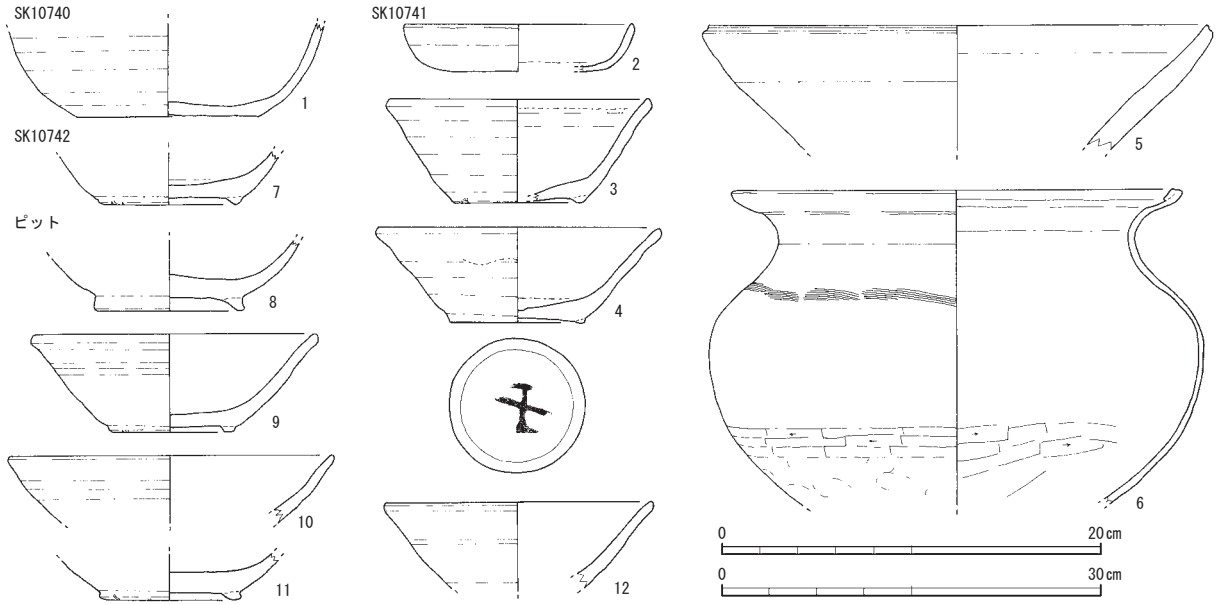


1 10YR6/2灰黄褐色砂質土【耕土】
2 【旧調査区埋戻し土】
3 2.5Y5/4黄褐色砂質土に10YR8/4浅黄橙色砂質土ブロックを含む
4 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土に10YR8/4浅黄橙色砂質土ブロックを多く含む
5 2.5Y6/2灰黄色砂質土
6 10YR6/2灰黄褐色砂質土に
10YR7/4にぶい黄橙色砂質土ブロック（焼土）を少し含む
7 10YR5/2灰黄褐色砂質土に
10YR8/4浅黄橙色砂質土ブロック（焼土）をやや含む【土坑埋土】
8 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土【土坑埋土】
9 10YR4/1褐灰色砂質土に10YR8/4浅黄橙色砂質土ブロック（焼土）、
人頭大の礫を多く含む【SK10741埋土】
10 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土【SK10742埋土】
11 2.5Y6/3にぶい黄色砂質土
12 10YR3/1黒褐色砂質土【SK10740埋土】
13 10YR4/2灰黄褐色砂質土【SD10744埋土】
14 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土
15 10YR4/1褐灰色砂質土【溝埋土】
16 2.5Y8/4淡黄色砂質土【地山】

第20図　第182－６次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）



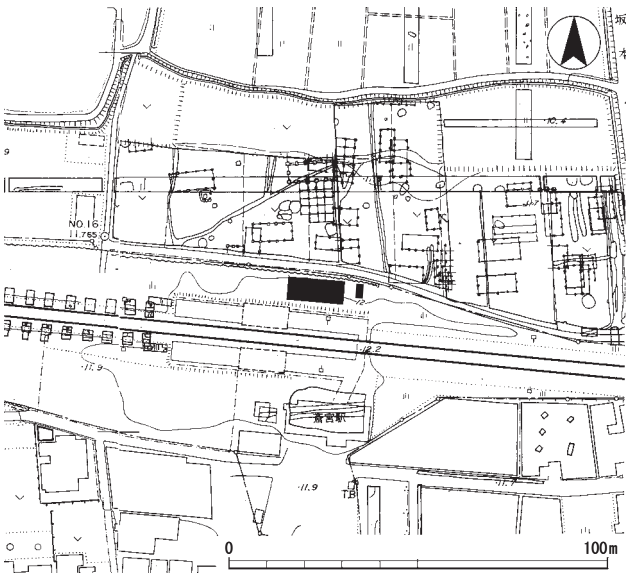
第21図　ＳＫ10741出土状況図・見通し図（1:20）



第22図　第182－６次調査　遺物実測図（１：４，６のみ１：６）

７　第182－７次調査（６ＡＩ９）

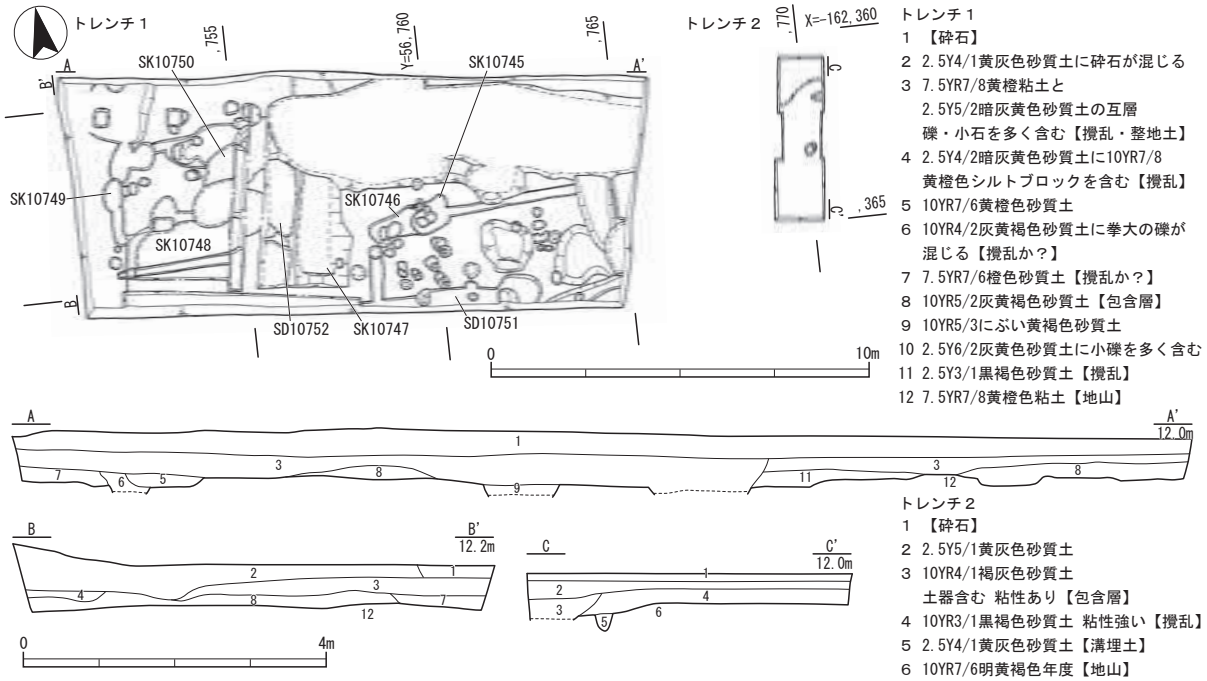
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字内山
3045－5、6、3046－5、7
原　　因　休憩所建設等
調査期間　平成26年10月７日～11月６日
調査面積　97.3㎡
調査概要　調査地は史跡中央部に位置し、明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の一環として行われた斎宮駅北口改札口休憩所施設建設に伴い、２箇所のトレンチで事前調査を実施した。



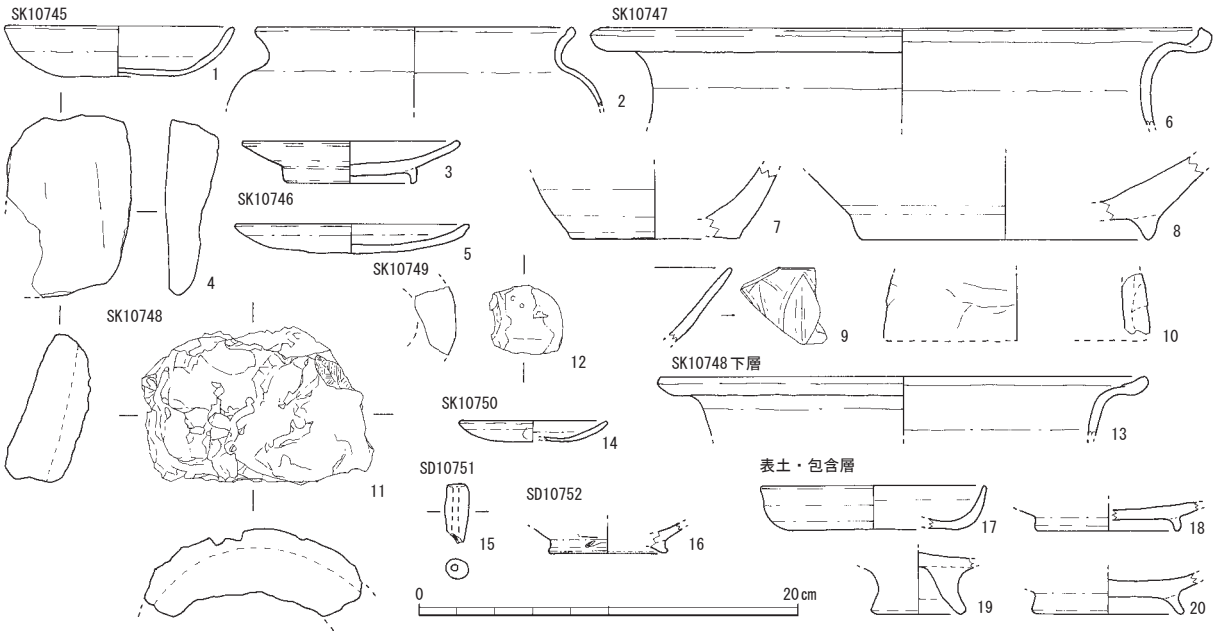
第23図　第182－７次調査区位置図（1:2,000）

基本層序は表土、灰黄褐色砂質土（包含層）、黄橙色粘土（地山）で、遺構は地表下約0.5m（標高約11.3m）の地山層上面で検出した。遺構は土坑、溝、柱穴を検出し、遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、山茶椀、青磁等が出土した。

ＳＫ10745は調査区中央に位置する土坑で、斎宮編年Ⅱ－３期の土師器杯（１）、甕（２）、須恵器台付小皿（３）、砥石（４）等が出土している。ＳＫ10746はＳＫ10745の西側に位置する土坑で、斎宮編年Ⅱ－４期の土師器皿（５）が出土した。ＳＫ10747は調査区中央に位置する溝状の土坑で、調査区北側に続くものであれば、溝と考えられる。斎宮編年Ⅳ期以降の土師器鍋（６）や陶器の平底鉢（７）、台付鉢（８）、蓮弁文のみられる青磁椀（９）、志摩式製塩土器（10）等が出土した。ＳＫ10748は調査区西側に位置する土坑で、鋳型の破片と考えられる土製品（11）が出土した。やや湾曲する外面にガラス質が付着しており、ガラス質の欠損した箇所からみえる外面胎土や内面胎土には籾殻痕跡が多数みられた。ＳＫ10748の下層からは斎宮編年Ⅳ期以降に該当する土師器鍋（13）が出土した。また、上層からは近世陶器や瓦なども出土しており、この鋳型は中世以降に降る可能



第24図　第182－７次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）



第25図　第182－７次調査　遺物実測図（１：４）

性が高いと考えられる。ＳＫ10749はＳＫ10748の北西に位置する土坑で、鞴羽口（12）が出土した。その他、土師器の小片が出土しているものの、正確な時期は不明である。ＳＫ10750はＳＫ10749の北に位置する土坑で、斎宮編年Ⅲ－３期の土師器小皿（14）等が出土した。ＳＤ10751は調査区南端に位置する溝で、調査区の南西に続く。管状土錘（15）や土師器小片が出土した。ＳＤ10752はＳＫ10746の西側に隣接する溝で、古代の土師器や須恵器と共に緑釉陶器（16）が出土した。

表土や包含層からは、須恵器皿もしくは蓋（17）の他、緑釉陶器（18）、ロクロ土師器（19）、陶器の山茶椀（20）などが出土した。

8　第182－８次調査（６ＡＬ６）

調査場所　多気郡明和町大字竹川字東浦361－1

原　　因　排水管埋設

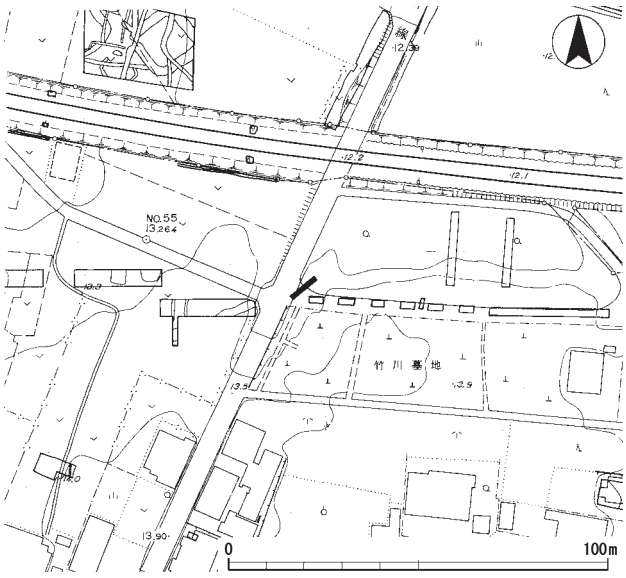
調査期間　平成26年11月28日

調査面積　５㎡

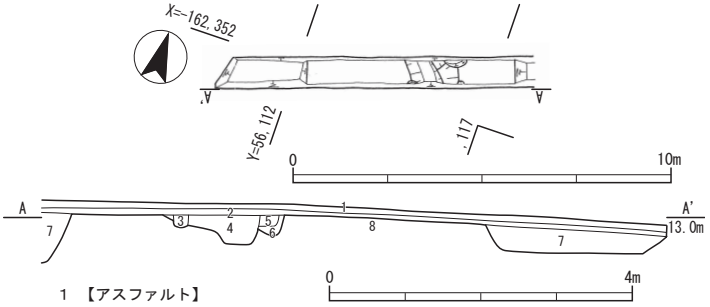
調査概要　調査地は史跡南西部に位置し、排水管埋設工事について立会を行ったところ遺構を確認したため実施した調査である。

基本層序は表土、地山で、遺構は地表下約0.2ｍ（標高約13.0ｍ）の地山層上面で検出した。遺構は溝、ピットを検出したものの、明確に遺構に伴う遺物はみられなかった。

ただし、包含層からは飛鳥時代の須恵器長頸壺（１）や陶器の山茶椀（２）等が出土した。

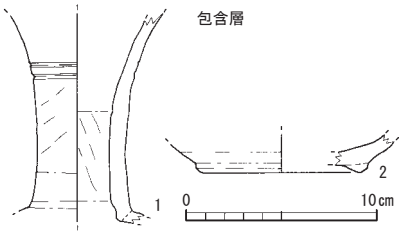


第26図　第182－８次調査区位置図（1:2,000）



1 【アスファルト】
2 【砕石】
3 10YR3/1黒褐色砂質土粘性ありに地山粘土ブロックを５%含む
4 10YR4/1褐灰色砂質土粘性ありに地山粘土ブロックを７%含む
5 2.5Y4/1黄灰色砂質土粘性ありに10YR7/8黄橙粘土ブロックを３%含む
6 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土粘性ありに地山粘土ブロックを５%含む
7 【撹乱】
8 10YR5/8黄褐色シルト【地山】

第27図　第182－８次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

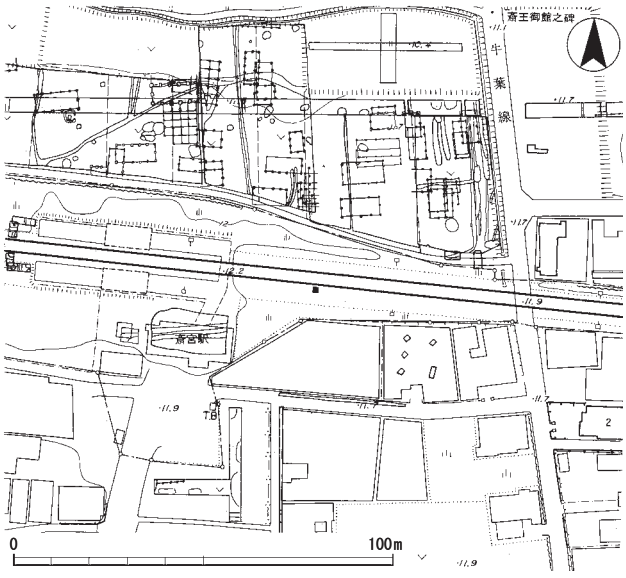


第28図　第182－８次調査
遺物実測図（１：４）

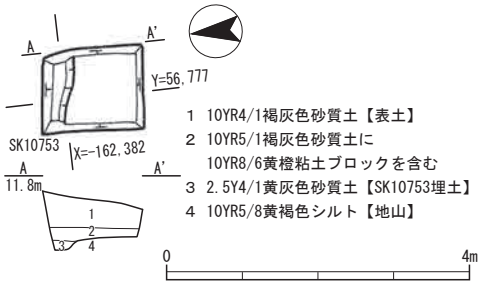
9　第182－９次調査（６ＡＮ13）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字内山
3046－4、5、7
原　　因　信号機建替
調査期間　平成26年12月20日
調査面積　1.4㎡
調査概要　信号新設工事に立会したところ、遺構を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央、近鉄斎宮駅構内に位置する。

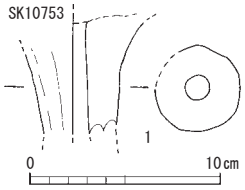
基本層序は表土直下が地山で、遺構は地表下約0.4mの地山層上面で検出した。遺構はＳＫ10753を確認し、土師器高杯（１）等が出土した。



第29図　第182－９次調査区位置図（1:2,000）



第30図　第182－９次調査　遺構平面図・断面図（1:100）

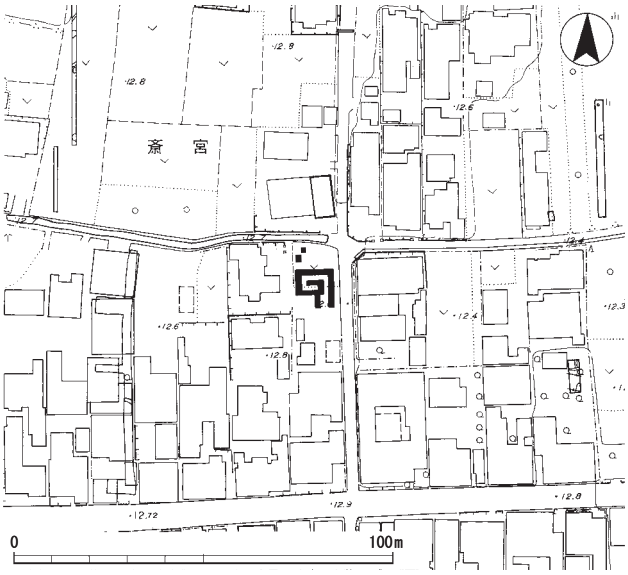


第31図　第182－９次調査　遺物実測図（１：４）

10　第182－10次調査（６ＡＪ12）

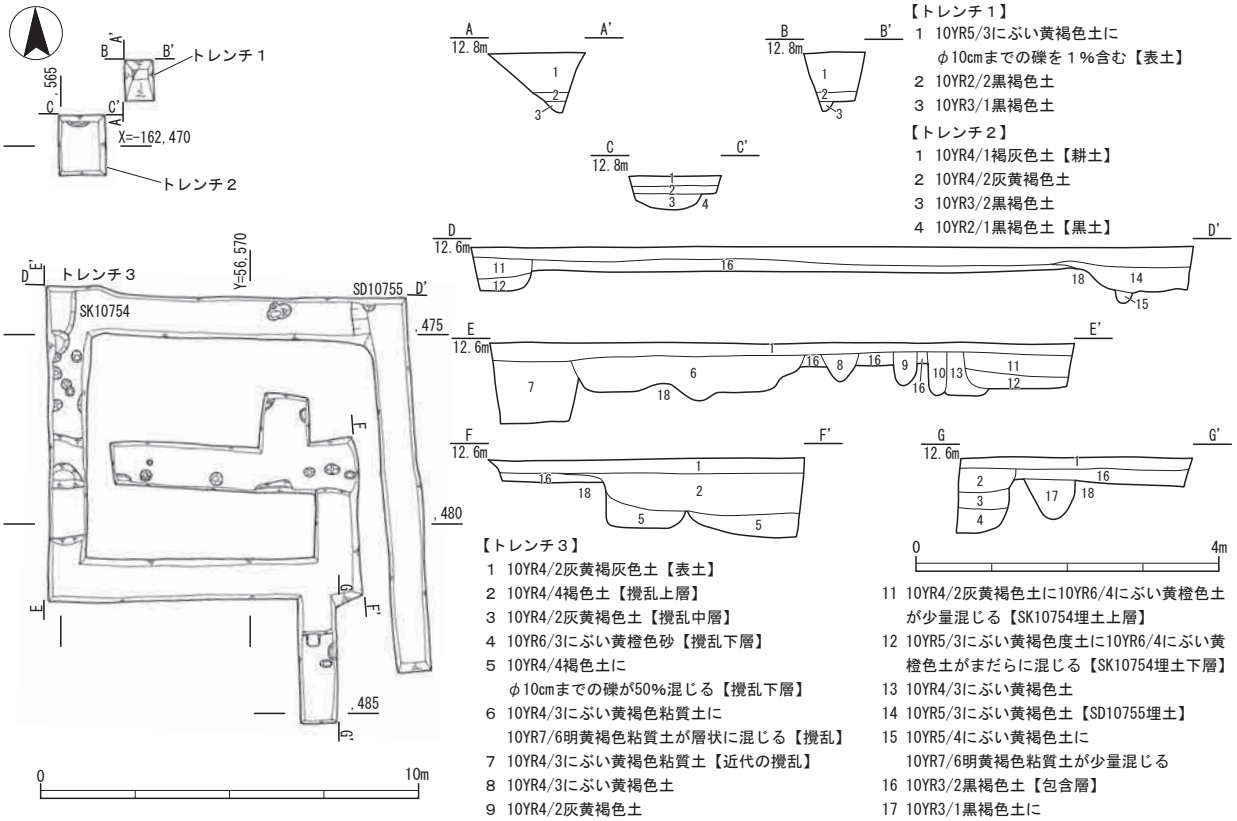
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字牛葉
3390－1
原　　因　住宅新築
調査期間　平成27年１月７日～１月19日
調査面積　32.7㎡
調査概要　調査地は史跡中央部南側に位置し、住宅の新築に伴い、３箇所のトレンチに分け実施した事前調査である。

基本層序は表土、黒褐色土（クロボク）、明黄褐色粘質土（地山）である。黒褐色土上面で遺構の検出を試みたが困難であったため、結果的に地表下約0.3m（標高約12.2m）の地山層上面で遺構を検出した。調査区の大分部分が近現代に攪乱を受けていたが、土坑、柱穴等を確認し、遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、無釉陶器等が出土した。



第32図　第182－10次調査区位置図（1:2,000）

ＳＫ10754は調査区の北西で確認された土坑で、奈良時代の土師器が多数出土した。ＳＤ10755は調査区東部全体におよぶ溝と考えられるが、遺物は出土しなかった。



第33図　第182－10次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

11　第182－11次調査（６ＡＲ７・Ｓ７）

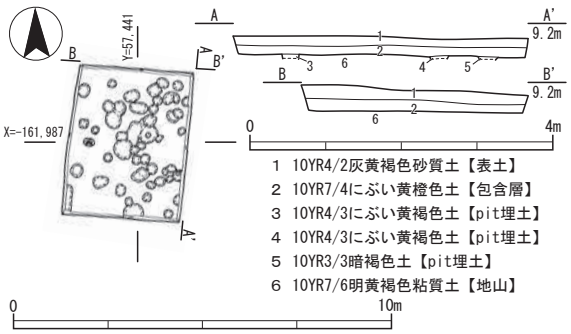
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字東前沖2484－4

原　　因　駐車場造成

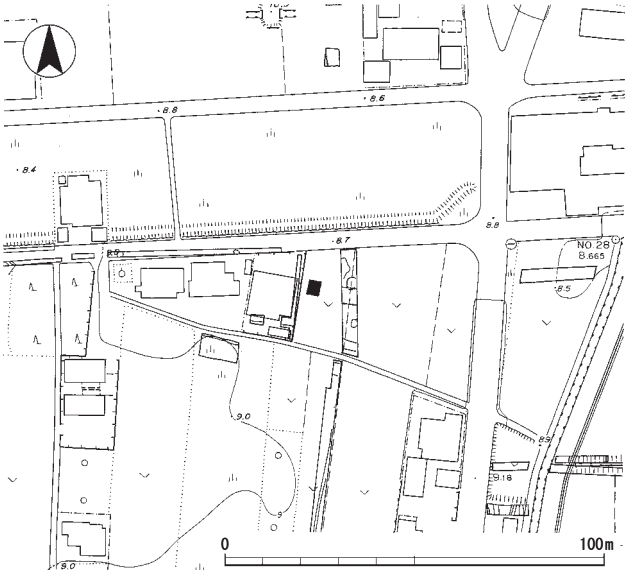
調査期間　平成27年１月７日～１月19日

調査面積　12.1㎡

調査概要　調査地は史跡北東部に位置し、駐車場造成に伴い、実施した事前調査である。



第35図　第182－11次調査
遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）



第34図　第182－11次調査区位置図（1:2,000）

基本層序は耕土、にぶい黄橙色土（包含層）、明黄褐色粘質土（地山）で、遺構は地表下約0.3m（標高約8.9m）の地山層上面で検出した。遺構は柱穴等を確認し、遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、山茶椀等が出土したものの、いずれも小片であった。

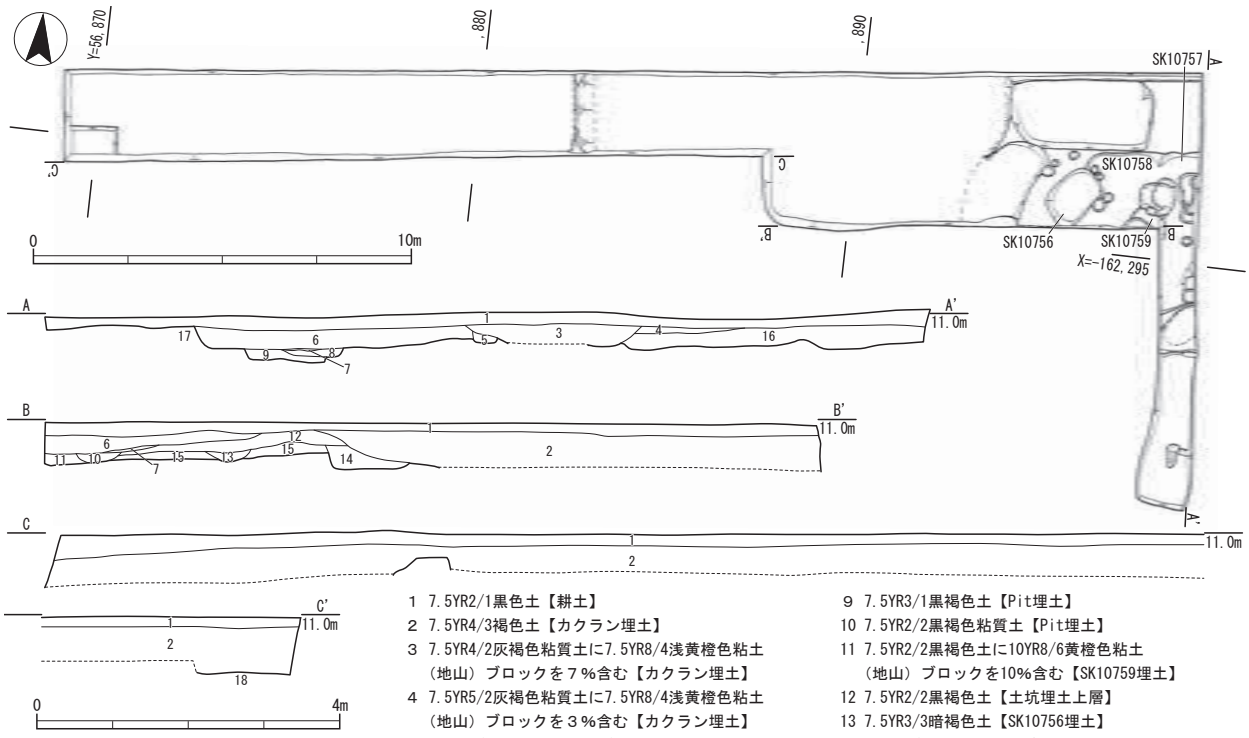
12　第182－12次調査（６ＡＰ11）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字御館
2953－2、2965
原　　因　発掘調査
調査期間　平成27年１月19日～４月17日
調査面積　104.7㎡
調査概要　調査地は史跡東部の平安時代方格地割でいうところの御館地区に位置し、明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の内容検討のため実施した遺構の状況確認を目的とした調査である。

第36図　第182－12次調査区位置図（1:2,000）

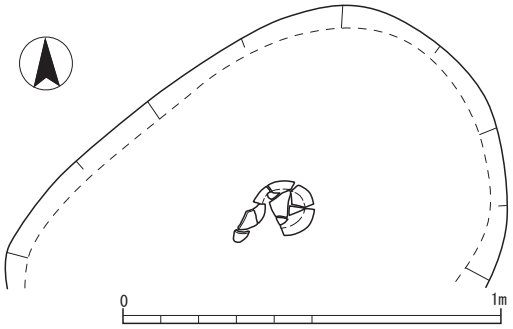
基本層序は耕土、褐灰色粘質土（包含層）、灰褐色粘土・浅黄橙色土（地山）で、遺構は地表下約0.2m（標高10.8m）の地山層上面で検出した。調査区の西側は、粘土採集などによる近現代の攪乱により、大きく掘り込まれていたが、遺構は土坑、ピットを確認し、遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、製塩土器、鉄製品等が出土したが、特筆すべきは人名墨書土器の出土である。

ＳＫ10756は調査区の東側に位置する土坑で、周囲には多数の土坑が重複している。斎宮編年Ⅱ－１～２期に該当する多数の土師器や須恵器、志摩式製塩土器とともに、「口万呂」の人名墨書土師器（１）が墨書面を下にした状態で出土した。またＳＫ10756の出土遺物は、比較的に製塩土器が多くみられた。すぐ東に隣接するＳＫ10758では、図面等の掲載はできなかったが、ＳＫ10756同

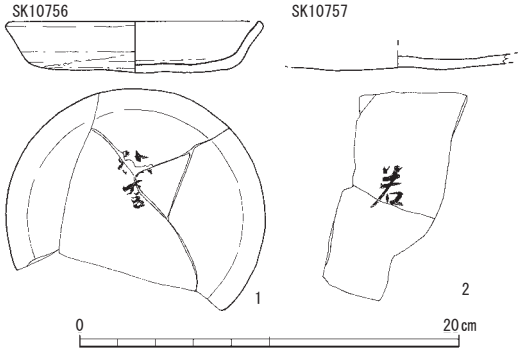


1 7.5YR2/1黒色土【耕土】
2 7.5YR4/3褐色土【カクラン埋土】
3 7.5YR4/2灰褐色粘質土に7.5YR8/4浅黄橙色粘土（地山）ブロックを７%含む【カクラン埋土】
4 7.5YR5/2灰褐色粘質土に7.5YR8/4浅黄橙色粘土（地山）ブロックを３%含む【カクラン埋土】
5 7.5YR2/1黒色土に7.5YR8/4浅黄橙色粘土（地山）ブロックを３%含む【Pit埋土】
6 7.5YR3/2黒褐色土に7.5YR8/4浅黄橙色粘土（地山）ブロックを１%含む【SK10757埋土】
7 7.5YR6/8橙色粘質土の層状堆積
8 7.5YR3/2黒褐色土【Pit埋土】
9 7.5YR3/1黒褐色土【Pit埋土】
10 7.5YR2/2黒褐色粘質土【Pit埋土】
11 7.5YR2/2黒褐色土に10YR8/6黄橙色粘土（地山）ブロックを10%含む【SK10759埋土】
12 7.5YR2/2黒褐色土【土坑埋土上層】
13 7.5YR3/3暗褐色土【SK10756埋土】
14 7.5YR2/2黒褐色土【土坑埋土】
15 7.5YR4/1褐灰色粘質土に7.5YR8/4浅黄橙色粘土（地山）ブロックを15%含む【SK10758埋土】
16 7.5YR4/1褐灰色粘質土【包含層】
17 7.5YR5/2灰褐色粘土【地山１】
18 7.5YR8/6浅黄橙色粘土【地山２】

第37図　第182－12次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）



第38図　ＳＫ10756「□万呂」墨書土器出土状況図（1:20）



第39図　第182－12次調査　遺物実測図（１：４）

様斎宮編年Ⅱ－１～２期の多数の土師器と共に底部に十字の刻書が施された土師器が出土した。さらに東に隣接するＳＫ10757でも同様で、底部に「若」と墨書された土師器（２）が出土した。ＳＫ10757では、その他にも鉄製品の釘等も複数点出土した。

以上からＳＫ10756～ＳＫ10759は、隣接してほとんど時期差なく土器が廃棄された土坑群と捉えることができ、こうした遺構中に、個人名を示す「□万呂」の墨書土器をはじめとする多数の墨書土器や多数の志摩式製塩土器が含まれていたことは興味深い。寮庁とされる柳原地区に隣接する御館区画の性格を表す資料となる可能性があり、今後さらなる周辺地域の実態解明が求められよう。

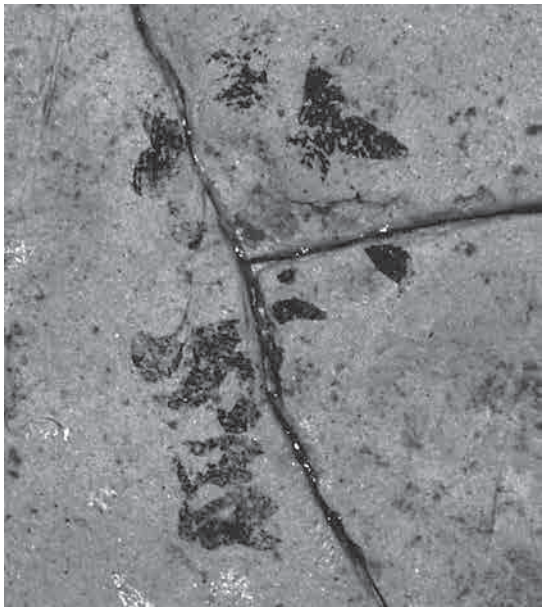


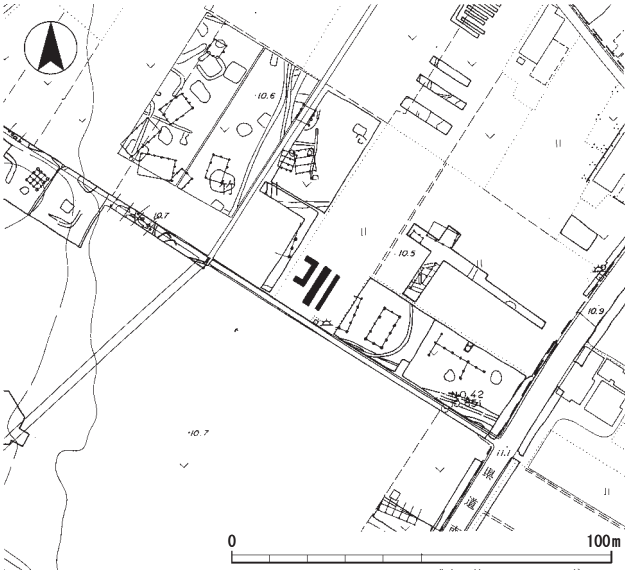
写真１　「□万呂」墨書土器赤外線写真

13　第182－13次調査（６ＡＷ13）

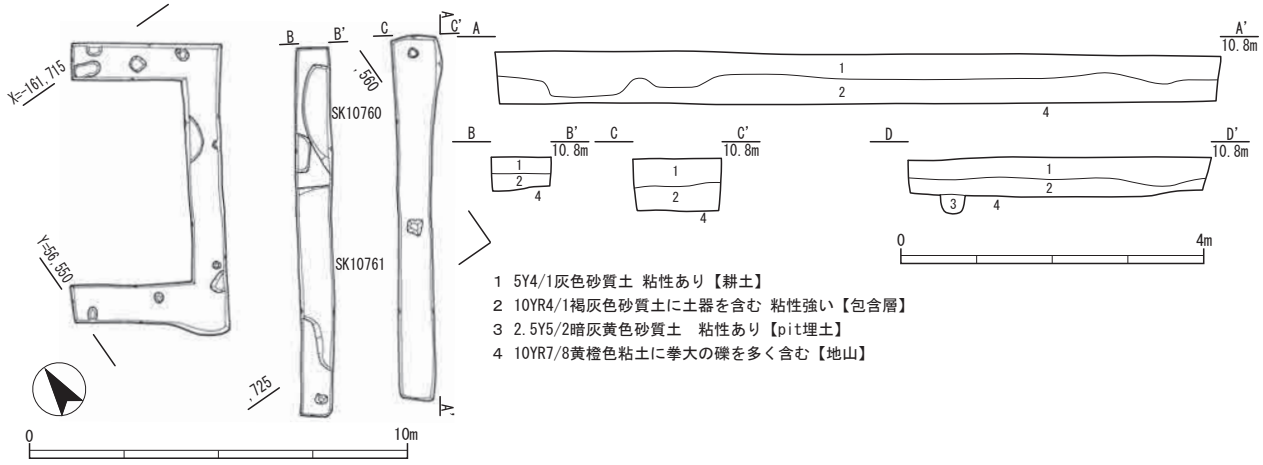
調査場所　多気郡明和町大字竹川字古里578
原　　因　住宅新築
調査期間　平成27年１月29日～２月12日
調査面積　30.1㎡
調査概要　調査地は史跡北東部、斎宮歴史博物館北側に位置し、住宅新築工事に伴い、３箇所のトレンチに分け実施した事前調査である。

基本層序は耕土、褐灰色砂質土（包含層）で、遺構は地表下約0.5m（標高約10.1m）の地山層上面で検出した。遺構は土坑とピットを確認し、遺物は土師器、須恵器、ロクロ土師器等が出土した。

中央の調査区ではＳＫ10760より斎宮編年Ⅰ－４期～Ⅱ－１期に該当する土師器皿（１）や須恵器杯（２）、甕（３）が出土した。ＳＫ

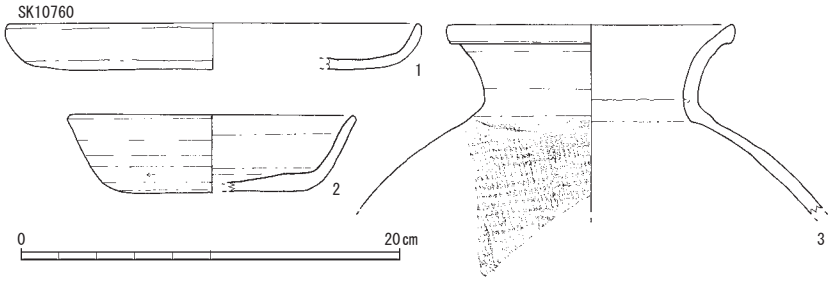


第40図　第182－13次調査区位置図（1:2,000）



第41図　第182－13次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

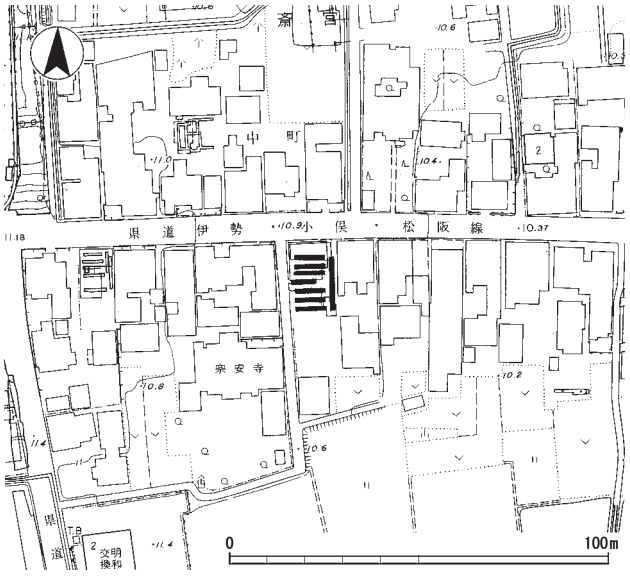
10760の南に位置する土坑であるＳＫ10761からは小片ではあるが、ロクロ土師器などが出土しており、調査区内でも時期の異なる遺構が隣接していた。



第42図　第182－13次調査　遺物実測図（１：４）

14　第182－14次調査（６ＡＫ４）

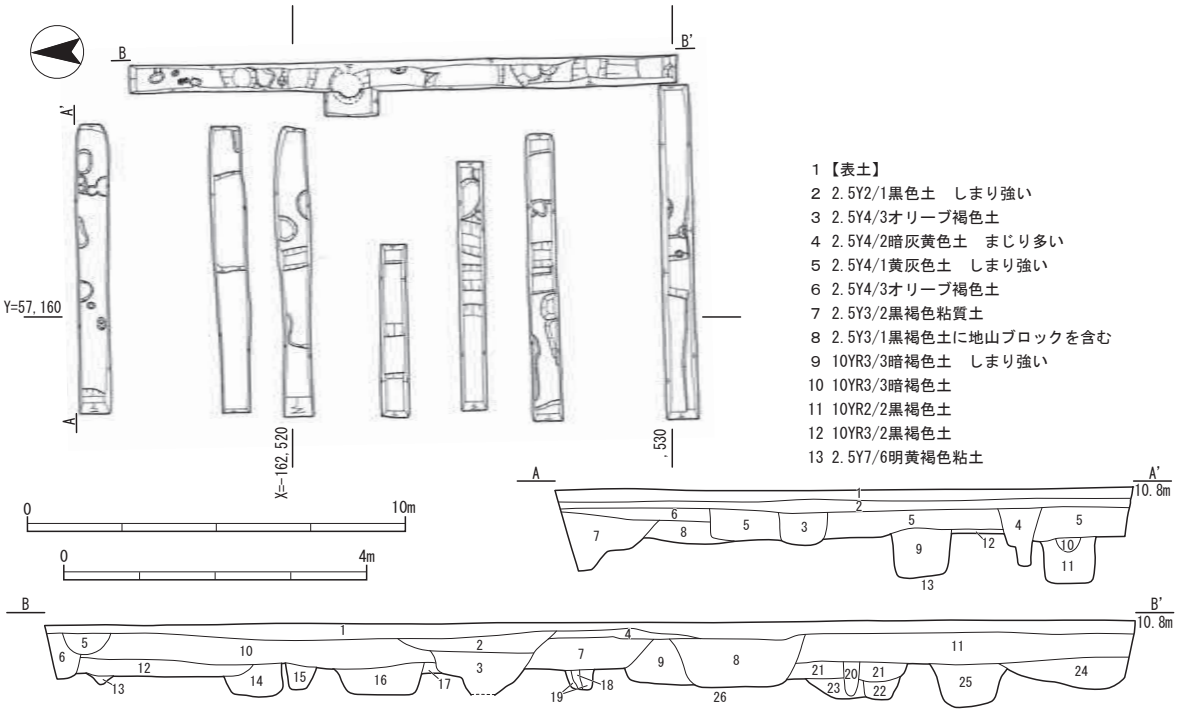
調査場所　多気郡明和町大字斎宮字中西592
原　　因　住宅新築
調査期間　平成27年２月27日～３月14日
調査面積　51.6㎡
調査概要　調査地は史跡中央部南に位置し、住宅新築工事に伴い、８箇所のトレンチを設けて実施した事前調査である。



第43図　第182－14次調査区位置図（1:2,000）

基本層序は表土、褐灰色粘質土、にぶい黄橙色粘質土（地山）で、遺構は地表下約0.6m（標高10.2m）の地山層上面で検出した。遺構は土坑、溝、ピットを確認したものの、トレンチ調査のため遺構の全容は不明ながら、黒色土の埋土をもつピットを複数基確認しており、これらが平安時代の柱穴となる可能性もある。遺物は土師器、近世陶磁器、瓦等が出土した。中世以前に遡る遺物はいずれも小片であった。

本調査地は平安時代方格地割内部でも、内院である鍛冶山西地区のすぐ南側、中西西地区に位置しているが、明確な平安時代の遺構を確認することはできなかった。あえて挙げるとすれば、柱穴の可能性があるピットであるが、出土遺物も少なく根拠に乏しい。今後の周辺調査事例の増加が期待される。



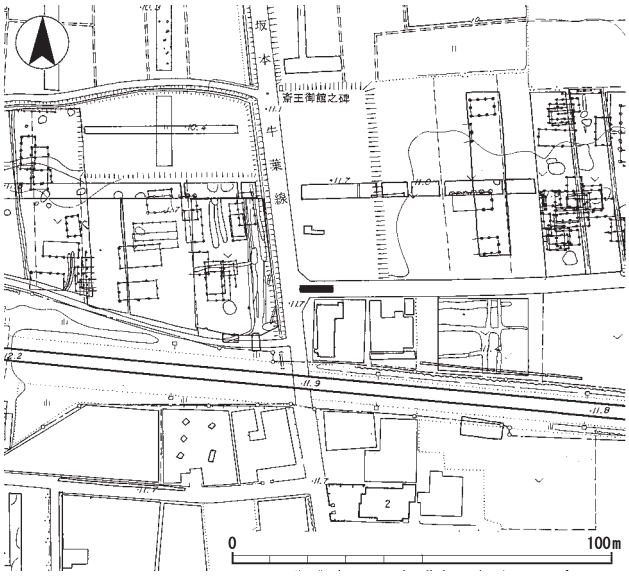
1 【表土】
2 2.5Y2/1黒色土　しまり強い
3 2.5Y4/3オリーブ褐色土
4 2.5Y4/2暗灰黄色土　まじり多い
5 2.5Y4/1黄灰色土　しまり強い
6 2.5Y4/3オリーブ褐色土
7 2.5Y3/2黒褐色粘質土
8 2.5Y3/1黒褐色土に地山ブロックを含む
9 10YR3/3暗褐色土　しまり強い
10 10YR3/3暗褐色土
11 10YR2/2黒褐色土
12 10YR3/2黒褐色土
13 2.5Y7/6明黄褐色粘土

1 10YR7/6明黄褐色砂質土
2 7.5YR5/3にぶい褐色土に
7.5YR6/8橙色土ブロックを含む
3 2.5Y8/6黄色粘土
4 7.5YR4/1褐灰色土
5 7.5YR4/1褐灰色土に礫を多く含む【撹乱】
6 7.5YR4/2灰褐色シルト
7 7.5YR4/2灰褐色粘質土
8 10YR3/1黒褐色粘質土【撹乱】
9 7.5YR4/3褐色土に
7.5YR7/8黄橙色粘土ブロックを10%含む
10 7.5YR5/1褐灰色粘質土
11 7.5YR4/2灰褐色粘質土　しまり強い
12 7.5YR3/1黒褐色粘質土
13 7.5YR3/1黒褐色粘質土に
10YR8/6黄橙色土をブロック状に含む
14 7.5YR2/1黒色粘質土
15 7.5YR3/1黒褐色シルトに
10YR8/6黄橙色土をブロック状に含む
16 7.5YR5/2灰褐色土
17 7.5YR6/1褐灰色粘質土
18 7.5YR4/1褐灰色粘質土
19 7.5YR3/1黒褐色粘質土
20 10YR4/2灰黄褐色砂質土
に2.5Y7/6明黄褐色土ブロックを10%含む
21 10YR4/2灰黄褐色土
22 7.5YR2/1黒色土に
2.5Y7/6明黄褐色土ブロックを10%含む
23 7.5YR2/1黒色土
24 7.5YR4/2灰褐色粘質土
25 7.5YR2/1黒色土に
10YR4/2灰黄褐色砂質土を層状に含む
26 10YR7/3にぶい黄橙色粘質土【地山】

第44図　第182－14次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

15　第182－15次調査（６ＡＫ12･K13）

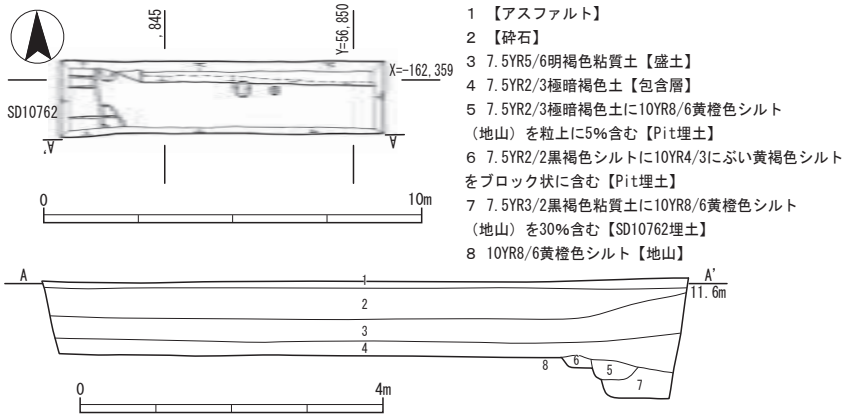
調査場所　多気郡明和町大字斎宮
原　　因　発掘調査
調査期間　平成27年３月10日～３月11日
調査面積　13.3㎡
調査概要　調査地は現況農道であり、平安時代の方格地割でいうところの御館区画の南西隅に該当し、明和町の歴史的風致維持向上計画にかかる事業の内容検討のため実施した、遺構の状況確認を目的とした調査である。本調査では御館区画西側に位置する南北区画道路東側溝の有無を確認することを目的とした。



第45図　第182－15次調査区位置図（1:2,000）

基本層序はアスファルト、砕石、盛土の下層に暗褐色土（包含層）、黄橙色粘土（地山）で、遺構は地表下約1.0m（標高10.7m）の地山層上面で検出した。遺構は溝１条とピットを確認し、遺物は土師器、ロクロ土師器、須恵器、緑釉陶器、陶器の山茶椀等が出土した。

ＳＤ10762は調査区西端で確認した溝で、ロクロ土師器や陶器の山茶椀等の平安後期以降の遺物を含むが、攪乱などではなく、位置的にも御館地区西辺の南北区画道路東側溝の可能性がある。ただし、平安前期に掘削されたオリジナルの溝ではないことは出土遺物から明らかである。



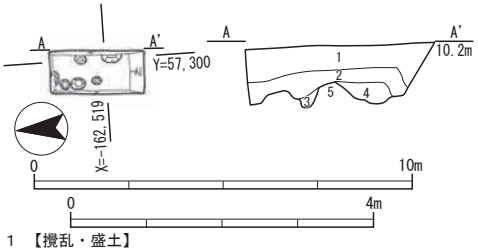
第46図　第182－15次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

16　第182－16次調査（６ＡＬ11）

調査場所　多気郡明和町大字斎宮字中西606
原　　因　住宅改築
調査期間　平成27年３月３日
調査面積　2.9㎡
調査概要　調査地は史跡南部に位置し、住宅改築に伴い、浄化槽の設置部分について実施した事前調査である。

基本層序は表土、灰色シルト、地山で、遺構は地表下約0.5m（標高9.7m）の地山層上面で検出した。柱穴を検出している。遺物は土師器、ロクロ土師器等が出土した。

第47図　第182－16次調査区位置図（1:2,000）



第48図　第182－16次調査　遺構平面図（1:200）・断面図（1:100）

【註】

（１）土器編年については右記の報告書を参考にした。『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館　2001

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
182－1	SB 9478	掘立柱建物	奈良時代	土師器・須恵器・弥生土器（混入）	
	SB 9479	掘立柱建物	平安前期	なし	
	SB 9480	掘立柱建物	古代	土師器	
	SB 9481	掘立柱建物	古代	なし	
	SB 9486	柱穴	古代	土師器	
	SB 10720	掘立柱建物１	平安時代	土師器・須恵器	総柱建物？
	SH 9455	竪穴住居１	飛鳥・奈良前期	なし	
	SH 10666	土坑11	飛鳥時代	土師器・不明土製品	
	SH 10722	土坑６	古代	土師器・須恵器・鉄滓・鞴羽口・打製石斧（混入か）	
	SA 9472	―	奈良時代	なし	SB9478より古い
	SA 9487	柱穴	平安時代	土師器	SB9486より新しい
	SA 10721	柱列	奈良時代？	土師器	門？
	SK 10723	土坑９	鎌倉時代	土師器・山茶碗・瓦	
	SK 10724	土坑10	鎌倉時代	土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・土錘・弥生土器小片	
	SK 10725	土坑12	平安時代	土師器・須恵器・灰釉陶器	
	SK 10726	土坑16	古代	土師器・須恵器	
	SD 9457	溝５・６	平安後期以降	須恵器・山茶碗・ロクロ土師器・土製品・鞴羽口	
	SD 9458	溝４	平安後期	土師器・須恵器	
	SD 9459	溝８・19	平安前期以降	土師器	SK10723・SD10730より古い、旧SK9459
	SD 9465	溝21・22	不明	土師器・須恵器・弥生土器（混入）	苑池？
	SD 9466	溝10	平安前期以降	土師器	
	SD 10662	溝18・20	鎌倉以降	土師器・山茶碗	
	SD 10668	溝11	鎌倉以降	土師器・山茶碗	
	SD 10727	溝１	平安前期	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品	
	SD 10728	溝２	平安前期	土師器・須恵器	
	SD 10729	溝３	平安前期以降	土師器・弥生土器（混入）	SA9487・SB9486より古い
	SD 10730	溝13	平安中期	土師器・弥生土器（混入）	SD9459より新しい
	SD 10731	溝17	不明	土師器	
	SD 10732	溝23	平安中期	土師器・灰釉陶器・弥生土器（混入）	
182－3	SK 10733	溝３	不明	土師器	
	SD 10734	溝２	不明	土師器	複数の土坑か？
	SD 10735	溝１	不明	山茶碗	
182－4	SD 10736	溝１	古代？	土師器・須恵器	
182－5	SK 10737	土坑１	平安前期	土師器・灰釉陶器	
	SD 10738	溝１	平安末期～鎌倉初頭	土師器・ロクロ土師器・須恵器・山茶碗	
182－6	SK 10739	土器溜まり	平安後期以降	土師器、ロクロ土師器	断面のみで確認
	SK 10740	土坑２	古代	土師器・須恵器	
	SK 10741	土坑５	鎌倉時代	土師器・山茶碗	
	SK 10742	土坑８	鎌倉時代	土師器・山茶碗	
	SD 9608	溝３	中世以降	なし	第149次調査で確認
	SD 10743	溝１	中世以降	土師器・山茶碗	
	SD 10744	溝２	中世以降	土師器・山茶碗	
182－7	SK 10745	土坑６	平安前期	土師器、須恵器、灰釉陶器、砥石	
	SK 10746	土坑11	平安後期以降	土師器	
	SK 10747	土坑７	鎌倉時代	土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶椀、製塩土器、鉄製品	
	SK 10748	土坑12	中世以降	土師器、須恵器、近世陶器、瓦、鋳型？	
	SK 10749	土坑13	古代？	土師器、鞴羽口	
	SK 10750	土坑15	鎌倉時代	土師器	
	SD 10751	溝３	古代	土師器、土錘	
	SD 10752	溝７	古代	土師器、須恵器、緑釉陶器	
182－9	SK 10753	土坑１	平安時代	土師器	
182－10	SK 10754	土坑１	奈良時代	土師器、須恵器	
	SD 10755	溝１	不明	なし	
182－12	SK 10756	土坑３	平安前期	墨書土師器、土師器、須恵器、製塩土器	
	SK 10757	土坑６	平安前期	墨書土師器、土師器、須恵器、鉄製品	
	SK 10758	土坑４	平安前期	刻書土師器、土師器	
	SK 10759	土坑７	平安前期	土師器、須恵器	
182－13	SK 10760	土坑１	奈良後期	土師器、須恵器	
	SK 10761	土坑２	平安後期以降	土師器、ロクロ土師器	
182－15	SD 10762	溝１	平安後期以降	土師器、ロクロ土師器、須恵器、緑釉陶器、山茶椀	

第２表　第182次調査遺構一覧表

第182－１次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	登録番号
1	土師器	杯	SH10666	土坑11	口径 残高	15.7 6.2	外面:ヨコナデ、オサエ 内面:ヨコナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	001-02
2	土師器	高杯	SH10666	土坑11	口径 残高	13.2 5.0	外面:ケズリ、ナデ、オサエ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	001-03
3	土師器	甑	SH10666	土坑11	口径 残高	28.4 6.3	外面:ミガキ、ヨコナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部2/12	002-01
4	土師器	小型甑	SH10666	土坑11	口径 推定高	17.2 12.0	外面:ヨコナデ、ナデ、オサエ 内面:ヨコナデ、ナデ　孔径4.7cm	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12 底部4/12	001-04
5	土師器	甕	SH10666	土坑11	最大径 器高	17.7 17.0	外面:ケズリ、ナナメナデ、オサエ、ヨコナデ 内面:ケズリ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	胴部4/12	002-02
6	土製品	不明品	SH10666	土坑11	長さ 厚さ	4.8 1.3	オサエ、ナデ　重さ11.62g	密	良	橙7.5YR6/6	完形	001-05
7	石製品	打製石斧	SH10722	土坑６	長さ 厚さ	16.6 2.35	結晶片岩製　重さ490g	—	—	明オリーブ灰5GY7/1	完形	011-02
8	土製品	鞴羽口	SH10722	土坑６	外径 残長	8.5 12.4	外面:オサエ、ナデ、ガラス質付着　孔径2.4cm	砂粒含む	良	明赤褐5YR5/6	先端部完形	011-01
9	土師器	鉢	SB9478 柱穴	土坑14	口径 器高	13.9 7.2	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ、オサエ、ヨコナデ	密	良	橙5YR7/8	口縁部5/12	002-03
10	弥生土器	壺	SB9478 柱穴	土坑18	残高	7.7	外面:貝殻羽状刺突、櫛描横線文 内面:マメツ	やや密	良	橙7.5YR6/6	小片	007-03
11	陶器 (山茶椀)	椀	SK10724	土坑10	底径 残高	7.7 2.7	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部4/12	001-01
12	土製品	土錘	SK10724	土坑10	長さ 幅	2.7 1.8	重さ1.48g	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	010-05
13	須恵器	瓶類	SK10726	土坑16	口径 残高	4.4 5.3	外面:ヘラケズリ、ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部5/12	002-04
14	陶器 (山茶椀)	椀	SD9457	溝６	底径 残高	7.3 2.7	外面:ロクロナデ、貼付高台、ナデ 内面:ロクロナデ	密	良	自然釉:ねこやなぎ色825 素地:灰白2.5Y7/1	底部完形	005-02
15	陶器 (山茶椀)	椀	SD9457	溝６	底径 残高	7.9 2.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部3/12	005-04
16	陶器 (山茶椀)	平底鉢	SD9457	溝６	底径 残高	10.2 6.3	外面:ロクロナデ、ナデ、オサエ 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/4	底部4/12	005-03
17	須恵器	平底甕	SD9457	溝６	底径 残高	25.2 8.9	外面:平行タタキ 内面:当て具痕、ナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部2/12	005-01
18	土師器	甕	SD9457	溝６	頂部径 残高	7.2 4.4	外面:ヘラナデ、オサエ、ナデ 内面:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/4	端部3/12	005-05
19	土製品	鞴羽口	SD9457	溝６	長さ 残高	4.8 4.1	外面:ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2～暗灰黄 2.5Y5/2	小片	010-06
20	土師器	皿	SD9459	溝８	口径 器高	16.1 2.0	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部4/12	006-01
21	弥生土器	鉢？	SD9465	溝21	口径 残高	18.1 5.1	外面:櫛描波状文、横線文、ナデ 内面:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	006-06
22	土師器	甑	SD9466	溝10	口径 残高	17.9 6.3	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	006-02
23	陶器 (山茶椀)	椀	SD10662	溝20	底径 残高	6.9 1.7	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	自然釉:青白橡989 素地:灰黄2.5Y6/2	底部5/12	006-04
24	土師器	皿	SD10662	溝20	口径 器高	11.1 1.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	006-05
25	土師器	杯	SD10727	溝１	口径 器高	13.0 3.2	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	黄灰2.5Y4/1	口縁部1/12	003-04
26	土師器	杯	SD10727	溝１	口径 器高	14.3 3.0	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部9/12	003-01
27	土師器	杯	SD10727	溝１	口径 器高	15.9 3.0	外面:ヘラケズリ、ヨコナデ、ナデ、オサエ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部5/12	003-07
28	土師器	杯	SD10727	溝１	口径 器高	17.9 4.1	外面:ヘラケズリ、ヨコナデ、ナデ、オサエ 内面:放射状暗文、ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部4/12	003-02
29	土師器	高杯	SD10727	溝１	脚径 残高	4.0 5.1	外面:ヘラケズリ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR4/4	小片	003-06
30	土師器	甕	SD10727	溝１	口径 残高	17.6 4.3	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	003-08
31	須恵器	盤	SD10727	溝１	底径 残高	6.0 1.7	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ、使用痕あり(炭化物付着)	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	底部4/12	003-03
32	灰釉陶器	壺	SD10727	溝１	口径 残高	12.9 2.2	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:鶯色818 素地:灰5Y5/1	口縁部2/12	003-05
33	鉄製品	釘？	SD10727	溝１	長さ 厚さ	2.3 0.3		—	—		小片	011-03
34	鉄製品	釘？	SD10727	溝１	長さ 厚さ	3.3 0.5		—	—		小片	011-04
35	土師器	杯	SD10728	溝２	口径 器高	13.9 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	004-01
36	土師器	杯	SD10728	溝２	脚径 残高	14.2 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	004-03
37	土師器	皿	SD10728	溝２	口径 器高	14.2 0.9	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	004-02
38	土師器	甕	SD10728	溝２	口径 残高	18.0 4.0	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部1/12	004-04
39	土師器	甕	SD10728	溝２	口径 残高	21.0 6.8	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、イタナデ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部4/12	004-05
40	土師器	杯	SD10729	溝13	口径 器高	14.4 3.0	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	004-03
41	弥生土器	壺	SD10732	溝23	残高	4.0	外面:櫛描横線文、櫛による流水文	やや密	良	にぶい黄橙10YR7/3	小片	004-06
42	土師器	甕	SD10732	溝23	口径 残高	20.4 7.2	外面:マメツ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	007-01
43	陶器 (山茶椀)	椀	SD10732	溝23	口径 器高 底径	16.3 4.8 6.6	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:鶸茶815 素地:灰黄2.5Y7/2	口縁部3/12 底部5/12	006-07
44	縄文土器	深鉢	ピット	h4 P5	残高	4.1	外面:斜縄文、沈線文 内面:ケズリ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	小片	008-06
45	縄文土器	深鉢	ピット	h3 P1	残高	3.7	外面:隆帯貼付後刺突、沈線文 内面:ケズリ	密	良	橙5YR6/6	小片	007-06
46	縄文土器	深鉢	ピット	g7 P2	残高	3.1	外面:隆帯貼付後刺突、横沈線文 内面:ケズリ	密	良	灰黄褐10YR4/2	小片	803

第３表　第182次調査遺物観察表１

第182－１次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	登録番号
47	弥生土器	広口壺	ピット	e6 P2	口径 残高	19.5 2.8	外面:口唇部にキザミ 内面:ハケ、口縁部に貼付	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	007-05
48	弥生土器	壺	ピット	g8 P2	残高	5.2	外面:櫛描横線文 内面:ナデ	密	良	浅黄色10YR8/4	小片	008-02
49	土師器	杯	ピット	g7 P1	口径 器高	14.4 2.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部2/12	008-01
50	弥生土器	小型鉢	カクラン	カクラン	底径 残高	5.2 4.2	外面:ケズリ、オサエ、ナデ 内面:ナデ	やや粗	良	橙7.5YR6/6	底部6/12	008-04
51	弥生土器	壺	カクラン	カクラン２	残高	6.1	外面:櫛描横線文 内面:オサエ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	小片	007-04
52	弥生土器	甕	包含層	包含層	口径 残高	40.6 4.9	外面:ハケ、ナデ、口唇部キザミ 内面:ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	009-01
53	土師器	甕	包含層	包含層	口径 残高	13.2 11.3	外面:ハケ、オサエ、ヨコナデ 内面:ヘラナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部4/12	008-05
54	須恵器	杯	包含層	包含層	底径 残高	13.2 3.3	外面:ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ　底部に墨書「丁？」	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	底部6/12	010-04
55	灰釉陶器	椀	表土	表土	底径 残高	9.8 3.4	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:灰緑857 素地:灰黄2.5Y7/2	底部3/12	007-02
56	灰釉陶器	椀	包含層	包含層	底径 残高	6.5 1.5	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部2/12	010-03
57	青磁	椀	包含層	包含層	口径 残高	10.5 1.9	外面・内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:水縹993 素地:灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12	010-01
58	青磁	椀	包含層	包含層	底径 残高	4.0 1.8	外面:ロクロケズリ、ケズリ出し高台 内面:ロクロナデ、沈線	密	良	釉薬:老竹色821 素地:灰黄2.5Y7/2	底部ほぼ完形	010-02
59	鉄製品	釘？	包含層	包含層	長さ 厚さ	4.5 0.4		—	—		小片	011-05

第182－５次調査

1	土師器	杯	SK10737	土坑１	口径 器高	12.0 3.3	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部8/12	001-01
2	土師器	皿	SK10737	土坑１	口径 器高	15.2 2.3	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁部2/12	001-02
3	土師器	甕	SK10737	土坑１	口径 残高	21.4 5.8	外面:ハケ、ヨコナデ 内面:ハケ、ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部2/12	001-03
4	灰釉陶器	平瓶	SK10737	土坑１	残高	2.8	外面・内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:利休白茶812 素地:灰黄2.5Y7/2	肩部1/12	001-04
5	土師器	杯	SD10738	溝１	口径 器高	12.6 2.7	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	やや密	不良	灰白10YR8/2	口縁部1/12	001-07
6	ロクロ土師器	台付皿	SD10738	溝１	底径 残高	5.2 1.2	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	001-06
7	陶器(山茶椀)	椀	SD10738	溝１	底径 残高	6.9 2.4	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部ほぼ完形	001-05
8	陶器(山茶椀)	椀	SD10738	溝１	底径 残高	5.9 2.4	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部5/12	001-06
9	土師器	杯	土器溜まり	土器溜まり	口径 残高	15.3 3.3	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部7/12	002-08
10	土師器	杯	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高	14.4 3.0	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部5/12	002-06
11	土師器	小皿	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高	8.6 1.7	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	完形	002-01
12	土師器	小皿	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高	9.0 2.0	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部7/12	002-02
13	ロクロ土師器	小皿	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高	9.5 2.0	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/8	口縁部3/12	002-04
14	ロクロ土師器	杯	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高	14.5 3.9	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	002-07
15	ロクロ土師器	台付小皿	土器溜まり	土器溜まり	口径 器高 底径	9.6 2.8 3.9	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	002-03
16	須恵器	杯	ピット	P5	口径 残高	14.5 2.9	外面・内面:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口縁部1/12	002-10
17	灰釉陶器	小型椀	ピット	P4	口径 器高 底径	8.5 3.6 4.6	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:海松茶817 素地:黄灰2.5Y6/1	口縁部2/12	002-09
18	緑釉陶器	椀	ピット	P1	底径 残高	7.5 1.4	外面:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台 内面:ロクロナデ、沈線	密	良	釉薬:苔色837 素地:暗灰黄2.5Y5/2	口縁部1/12	003-01
18	緑釉陶器	椀	ピット	P3	底径 残高	5.6 1.3	外面:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:青白橡989 素地:にぶい黄2.5Y6/3	底部2/12	003-02

第182－６次調査

1	須恵器	平底壺	SK10740	土坑２	底径 残高	9.5 5.0	外面:ロクロケズリ 内面:ロクロナデ	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	底部完形	001-01
2	土師器	杯	SK10741	土坑５	口径 器高	11.9 2.5	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部2/12	001-04
3	陶器(山茶椀)	椀	SK10741	土坑５	口径 器高 底径	13.6 5.6 6.5	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	自然釉:青白橡989 素地:灰黄2.5Y7/2	口縁部3/12	001-02
4	陶器(山茶椀)	椀	SK10741	土坑５	口径 器高 底径	14.7 5.0 6.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ　底外面に墨書「壬？」	密	良	自然釉:威光茶990 素地:灰黄2.5Y6/2	口縁部4/12	004-02
5	陶器(山茶椀)	鉢	SK10741	土坑５	口径 残高	26.2 6.6	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部1/12	001-03
6	土師器	鍋	SK10741	土坑５	口径 残高	34.5 24.3	外面:ヘラケズリ、ハケ、ヨコナデ 内面:ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部3/12	003-01
7	陶器(山茶椀)	椀	SK10742	土坑８	底径 残高	7.0 2.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部8/12	001-05
8	陶器(山茶椀)	椀	ピット	r13 P2	底径 残高	7.3 3.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	自然釉:鶯色818 素地:灰黄2.5Y7/2	底部9/12	002-03
9	陶器(山茶椀)	椀	ピット	t13 P2	口径 器高 底径	14.8 5.2 5.7	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ　底外面に墨痕あり	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部3/12	004-01
10	陶器(山茶椀)	椀	ピット	t13 P6	口径 残高	16.9 3.6	外面・内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12	002-02
11	陶器(山茶椀)	椀	ピット	t13 P6	底径 残高	6.5 2.5	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	自然釉:抹茶色838 素地:灰黄2.5Y7/2	底部6/12	001-06
12	陶器(山茶椀)	椀	ピット	t13 P6	口径 残高	13.9 4.6	外面・内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部1/12	002-01

第４表　第182次調査遺物観察表２

第182－７次調査

番号	器種	器形	出土遺構	調査時遺構名	法量(cm) 重さ(g)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	登録番号
1	土師器	杯	SK10745	土坑６	口径 器高	11.9 2.6	外面：ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部3/12	001-02
2	土師器	甕	SK10745	土坑６	口径 器高	16.3 4.2	外面・内面：ハケ（マメツ）、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部2/12	001-01
3	須恵器	台付小皿	SK10745	土坑６	口径 器高 底径	11.2 2.2 6.6	外面：ロクロナデ、貼付高台 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	完形	001-03
4	石製品	砥石	SK10745	土坑６	長さ 幅 厚さ	9.5 6.5 2.6	重さ203g、凝灰岩？	—	—			001-04
5	土師器	皿	SK10746	土坑11	口径 器高	12.2 1.5	外面：ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	001-07
6	土師器	鍋	SK10747	土坑７	口径 残高	31.5 5.2	外面・内面：ハケ（マメツ）、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部2/12	002-01
7	陶器 （山茶椀）	平底鉢	SK10747	土坑７	底径 残高	8.6 3.8	外面：ロクロケズリ 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部2/12	001-05
8	陶器 （山茶椀）	台付鉢	SK10747	土坑７	底径 残高	15.1 4.4	外面：ロクロケズリ、貼付高台、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部1/12	001-06
9	青磁	椀	SK10747	土坑７	残高	4.0	外面：印花文	密	良	釉薬：老竹色821 素地：浅黄2.5Y7/3	小片	003-01
10	土製品	製塩土器	SK10747	土坑７	最大径 残高	14.0 3.2	外面・内面：オサエ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	小片	003-03
11	土製品	鋳型？	SK10748	土坑12	高さ 幅 厚さ	7.8 11.8 3.3	外面：ガラス質化、モミガラ痕跡 内面モミガラ痕跡多数	—	—	にぶい黄橙10YR7/4		003-06
12	土製品	鞴羽口	SK10749	土坑13	外径 残長	4.0 3.9	外面：ガラス質化	密	良	にぶい黄2.5Y6/3		003-07
13	土師器	鍋	SK10748 下層	土坑14	口径 残高	25.5 3.1	外面：ハケ（マメツ）、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部1/12	002-02
14	土師器	小皿	SK10750	土坑15	口径 器高	7.7 1.1	外面：ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部5/12	002-03
15	土製品	土錘	SD10751	溝３	残長 幅	3.1 1.2	ナデ　重さ3.75g	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	ほぼ完形	002-08
16	緑釉陶器	椀	SD10752	溝７	底径 残高	5.8 2.6	外面：ロクロナデ、貼付高台 内面：ロクロナデ	密	良	釉薬：松葉色851 素地：灰黄2.5Y6/2	底部1/12	003-02
17	須恵器	皿？	表土	表土	口径 器高	11.7 2.3	外面：ロクロケズリ、ロクロナデ 外面：ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口縁部2/12	002-07
18	緑釉陶器	椀	包含層	包含層	底径 残高	7.3 1.5	外面：ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉薬：威光茶990 素地：灰黄2.5Y6/2	底部2/12	002-04
19	ロクロ 土師器	台付椀	包含層	包含層	底径 残高	4.4 3.3	外面：ロクロナデ、貼付高台 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部5/12	002-06
20	陶器 （山茶椀）	椀	包含層	包含層	底径 残高	7.6 2.2	外面：ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y7/2	底部ほぼ完形	002-05

第182－８次調査

1	須恵器	長頸壺	包含層	トレンチ	最大径 残高	7.2 11.0	外面：ロクロナデ、沈線 内面：ロクロナデ、シボリ痕	密	良	灰10Y5/1	頸部のみ	001-02
2	陶器 （山茶椀）	椀	包含層	トレンチ	底径 残高	8.1 2.0	外面：ロクロナデ、貼付高台 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部2/12	001-01

第182－９次調査

1	土師器	高杯	SK10753	イコウ	最大径 残高	5.0 6.3	外面：ヘラケズリ、ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	脚のみ	001-01

第182－12次調査

1	土師器	杯	SK10756	土坑３	口径 器高	13.2 2.8	外面：ケズリ、ヨコナデ、ナデ、オサエ、墨書「口万呂」 内面：ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部8/12	001-01
2	土師器	皿？	SK10757	土坑６	残高	0.7	外面：オサエ、ナデ、墨書「若」 内面：同心円の暗文？	密	良	橙5YR7/6	底部のみ	001-02

第182－13次調査

1	土師器	皿	SK10760	土坑１	口径 器高	21.5 2.4	外面：ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部1/12	001-03
2	須恵器	杯	SK10760	土坑１	口径 器高	14.9 4.1	外面：ロクロケズリ、ロクロナデ、ナデ、オサエ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口縁部2/12	001-02
2	須恵器	甕	SK10760	土坑１	口径 残高	14.9 10.0	外面：タタキ、ロクロナデ 内面：ナデ	密	不良	浅黄2.5Y8/3	口縁部3/12	001-01

第５表　第182次調査遺物観察表３

付編　史跡現状変更等許可申請

平成26年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、41件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め18件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が２件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが16件（うち前年申請分５件）である。

41件の申請の内27件は、宅地敷地内における個人住宅の建築など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

26年度の申請の内容は、一覧表（第６表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建築、解体に伴うもので14件あった。うち住宅新築、浄化槽設置、太陽光発電施設設置など発掘調査が必要とされた５件（第182－６、10、11、13、14次調査）について調査を行った。

他の９件については、住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は16件の提出があった。うち発掘調査が必要な申請は４件あり、改札口設置（第182－４次調査）と排水管埋設（第182-８次調査）と信号機建替（第182－9次調査）の３件を実施した。小学校のプール移転については、着工時期の関係で、次年度調査とした。他の件については、電気・電話関係と簡易な水路改修、舗装であり工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は７件あり、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものであった。その中で、発掘調査が必要な申請は３件あり、休憩所建設等（第182－５、７次調査）について実施し、１件については、着工時期の関係で、次年度調査とした。

（D）発掘調査のための申請

この申請は３件の提出があった。うち２件が、三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第183次・第184次調査）で、405.7㎡が調査された。

これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

また、明和町歴史的風致維持向上計画事業を推進するための発掘調査１件について、調査を行った（第182－12次調査）。

（乾　哲也）

	申　請　地	種別	申　請　者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備　考
1	竹川字中垣内452-1	A	個人	太陽光発電施設設置	H26. 4. 9	H26. 5. 16	355. 56㎡	3	第182－６次調査
2	斎宮字内山3045-5他5筆	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	休憩所建設等	H26. 4. 14	H26. 5. 16	2574. 45㎡、 L＝609m	1、3	第182－５、 第182―７次調査
3	斎宮字内山3046-4・5・7	B	近鉄日本鉄道(株)	改札口設置	H26. 4. 17	H26. 5. 16	784. 85㎡	4	第182－４次調査
4	斎宮字広頭3381-3他9筆	B	明和町教育委員会	プール移転	H26. 4. 23	H26. 6. 20	5705. 48㎡	3、4	第185－３次調査
5	斎宮字御館2966-1他2筆	D	三重県 （斎宮歴史博物館）	発掘調査	H26. 5. 20	H26. 6. 20	242. 4㎡	1	第183次調査
6	斎宮字西加座2692他6筆	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱・支線撤去	H26. 6. 24	H26. 7. 4	4本、4条	1、3	
7	竹川字東裏346	A	個人	ブロック塀新設	H26. 7. 14	H26. 7. 23	L＝36. 5m	4	
8	斎宮字牛葉3014	B	明和町 （人権生活環境課）	掲示板建替え	H26. 7. 25	H26. 8. 6	1基	4	
9	斎宮字内山3020-32他28筆	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	史跡整備	H26. 8. 18	H26. 9. 19	L＝267. 9m	3	第185－10次調査
10	斎宮字中西627-1他12筆	B	三重県 （松阪農林事務所）	農業用水路改修	H26. 8. 15	H26. 9. 19	L＝200m	2、3	
11	斎宮字御館2964-1他2筆	D	三重県 （斎宮歴史博物館）	発掘調査	H26. 8. 19	H26. 9. 19	163. 3㎡	1	第184次調査
12	竹川字中垣内地先	B	明和町 （まち整備課）	道路改修	H26. 8. 21	H26. 8. 27	L＝320m	3	
13	竹川字南裏144-1	A	個人	フェンス建替え	H26. 8. 26	H26. 9. 5	L＝41. 5m	3	
14	斎宮字西前沖2604-4	A	株式会社 村田組	建物新築	H26. 9. 1	H26. 10. 17	1526. 03㎡	4	
15	斎宮字西加座2666-10他1筆	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	整備地造成	H26. 9. 10	H26. 10. 17	281㎡	1	
16	斎宮字東前沖2484-4	A	個人	駐車場造成	H26. 9. 11	H26. 10. 17	15㎡	3	第182－11次調査
17	竹川字中垣内434-1他1筆	A	個人	倉庫新設	H26. 9. 16	H26. 10. 17	84㎡	3	
18	斎宮字内山3045-12	C	株式会社 堀崎組	仮設プレハブ設置	H26. 9. 25	H26. 10. 14	2棟	1	
19	竹川字東裏361-1	B	明和町 （まち整備課）	排水管埋設	H26. 10. 2	H26. 11. 21	L＝72. 5m	3	第182－８次調査
20	斎宮字西加座2666-1他6筆	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	残土仮置き	H26. 10. 2	H26. 11. 21	1912. 8㎡	1	
21	斎宮字内山3046-3	B	中部電力(株) 松阪営業所	支線建替	H26. 10. 7	H26. 10. 17	1条	1	
22	斎宮字中西地内	B	三重県 （松阪建設事務所）	側溝付替	H26. 10. 17	H26. 11. 21	121. 3m	3	
23	斎宮字牛葉3390番1	A	個人	住宅新築	H26. 10. 20	H26. 11. 21	73. 14㎡	3	第182-10次調査
24	斎宮字西加座2666-10	C	三重県 （斎宮歴史博物館）	電柱設置等	H26. 11. 20	H26. 11. 17	1本	1	
25	斎宮字篠林地内	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	カラー舗装	H26. 11. 21	H26. 11. 21	103m	3	
26	斎宮字楽殿2890-3	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H26. 11. 26	H26. 12. 8	1本	3	
27	斎宮字内山3046-4他2筆	B	近鉄日本鉄道(株)	信号機建替	H26. 11. 27	H26. 12. 8	1基	3	第182－９次調査
28	竹川字古里578の一部	A	個人	住宅新築	H26. 12. 8	H27. 1. 16	61. 40㎡	3	第182－13次調査
29	斎宮字楽殿2918-1	A	個人	住宅改築	H26. 12. 9	H27. 1. 16	105. 99㎡	4	
30	斎宮字中西592	A	個人	住宅新築	H26. 12. 10	H27. 1. 16	138. 01㎡	3	第182－14次調査
31	斎宮字御館2953-2他1筆	D	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	発掘調査	H26. 12. 10	H27. 1. 16	104. 7㎡	1	第182－12次調査
32	斎宮字内山3046-4他2筆	B	近鉄日本鉄道(株)	コンクリート柱新設	H26. 12. 24	H27. 1. 6	1基	3	
33	斎宮字内山3046-11他3筆	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱・支線撤去、支線新設	H26. 12. 25	H27. 1. 6	2本、5条	1	
34	斎宮字楽殿2918-2他8筆	C	明和町 （斎宮跡・文化観光課）	案内板設置	H27. 1. 13	H27. 1. 27	9基	1、2、3	
35	斎宮字西前沖2604-49	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替・支線撤去	H27. 1. 19	H27. 1. 30	1本、1条	2、3	
36	斎宮字木葉山95-2	A	個人	太陽光発電施設設置	H27. 1. 30	H27. 3. 13	335㎡	4	
37	斎宮字広頭3389-2	B	中部電力(株) 松阪営業所	支線撤去	H27. 1. 30	H27. 2. 6	1条	4	
38	斎宮字コウロギ地内	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱新設	H27. 2. 17	H27. 3. 4	1本	3	
39	竹川字古里578、地内	A	個人	水道管埋設	H27. 2. 26	H27. 4. 17	119m	3	
40	斎宮字牛葉3033	A	個人	プレハブ撤去	H27. 3. 11	H27. 4. 17	1棟	4	
41	斎宮字篠林3147番3	A	個人	住宅建築	H27. 3. 11	H27. 4. 17	59. 58㎡	3	

第６表　平成26年度現状変更等許可申請一覧

写　真　図　版

写真図版１　第182－１次調査 トレンチ１全景（西から）

写真図版２　第182－１次調査 トレンチ２全景（南から）

写真図版３　第182－１次調査 トレンチ３全景（南から）

写真図版４　第182－１次調査 トレンチ４・５全景（南から）

写真図版５　ＳＨ10666カマド周辺出土状況（南から）

写真図版６　ＳＡ10721（南から）

写真図版７　ＳＢ9478柱穴（東から）

写真図版８　ＳＡ9487柱列（南から）

写真図版９　第182－２次調査 全景（南西から）

写真図版10　第182－３次調査 全景（北西から）

写真図版11　第182－４次調査 トレンチ１全景（西から）

写真図版12　第182－４次調査 トレンチ２全景（西から）

写真図版13　第182－５次調査 トレンチ１全景（南から）

写真図版14　第182－５次調査 トレンチ２全景（南から）

写真図版15　第182－５次調査 トレンチ３全景（南から）

写真図版16　第182－５次調査 ＳＫ10737（東から）

写真図版17　第182－５次調査 トレンチ５全景（北から）

写真図版18　第182－６次調査 全景（東から）

写真図版19　第182－７次調査 トレンチ１全景（西から）

写真図版20　第182－８次調査 全景（南東から）

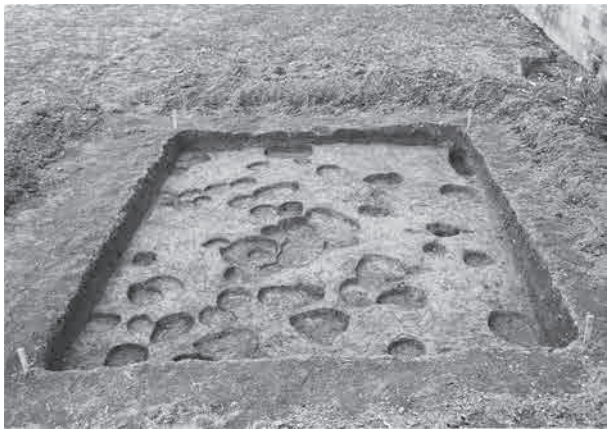
写真図版21　第182－９次調査 全景（南から）

写真図版22　第182－10次調査 トレンチ３西側全景（北から）

写真図版23　第182－10次調査 トレンチ３中央全景（東から）

写真図版24　第182－10次調査 トレンチ３東側全景（南から）

写真図版25　第182－10次調査 トレンチ３北側全景（東から）



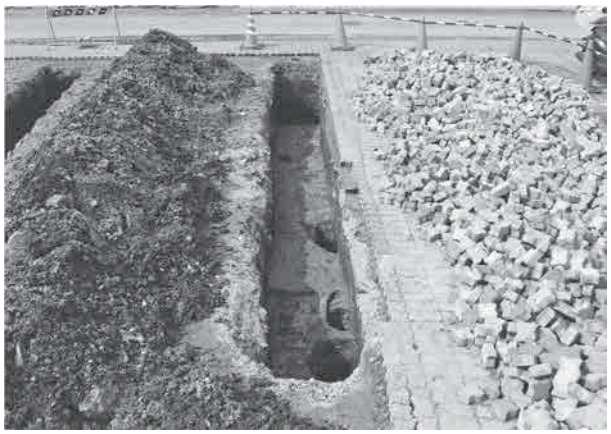
写真図版26　第182－11次調査 全景（北から）

写真図版27　第182－13次調査 全景（南から）

写真図版28　第182－12次調査 全景（東から）

写真図版29　ＳＫ10756「□万呂」墨書土器出土状況（北から）

写真図版30　ＳＫ10757出土状況（南から）



写真図版31　第182－14次調査 トレンチ１全景（東から）

写真図版32　第182－14次調査 トレンチ４全景（東から）

写真図版33　第182－15次調査 東側（北から）

写真図版34　第182－16次調査 全景（北から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	しせきさいくうあと　へいせいにじゅうろくねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく
書　　名	史跡斎宮跡　平成26年度現状変更緊急発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	32
編 著 者 名	宮原佑治　乾哲也
編 集 機 関	斎宮歴史博物館（調査研究課）　明和町（斎宮跡・文化観光課）
所 在 地	〒515-0332　三重県多気郡明和町大字馬之上945番地　　℡　0596（52）7126
発行年月日	西暦　2015年３月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
斎宮跡（さいくうあと）	多気郡明和町（たきぐんめいわちょう） 斎宮（さいくう）・竹川（たけがわ）	24442	210	34° 31′ 55″ ～ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ～ 136° 37′ 37″	20140401 ～ 20150331	全16件 868㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第182次調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第182次	官衙	飛鳥・奈良・平安 鎌倉・室町 近世	土坑・溝・ピット 掘立柱建物	土師器　須恵器 灰釉陶器　中世陶器 近世陶器 石器　鉄製品	

要約	本調査は、史跡内の現状変更に伴う緊急発掘調査である。ほとんどの調査は住宅新築・改築に伴う小規模なものであるが、第182－１次調査では奈良時代斎宮を示す可能性がある掘立柱塀・建物跡などを確認することができた。また第182－12次調査では、人名墨書土器が土坑内より出土し、遺構・遺物ともに史跡内の新たなデータを蓄積することができた。

史跡　斎宮跡

平成26年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成28(2016)年３月18日

編　集　斎宮歴史博物館
　　明和町

発　行　明和町

印　刷　光出版印刷株式会社